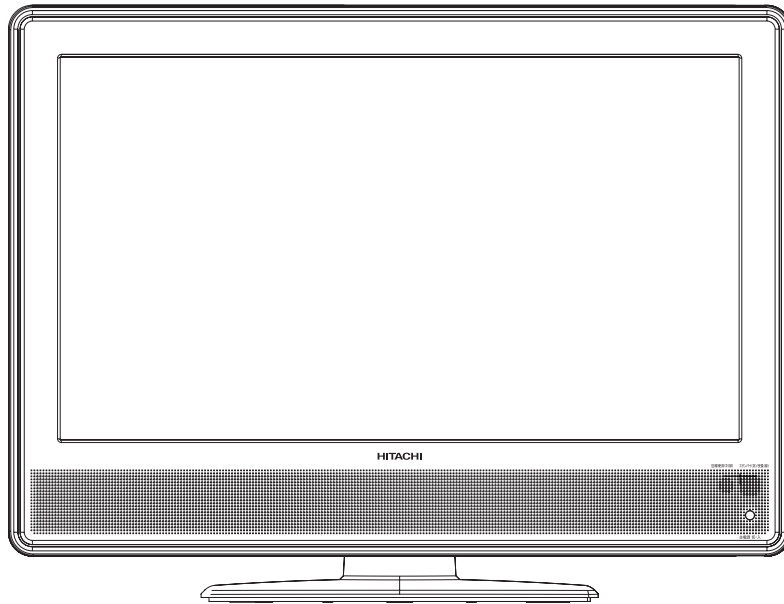
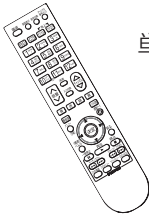
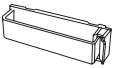
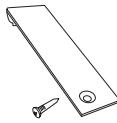
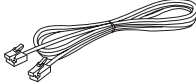
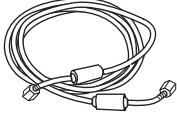
HITACHI
Inspire the Next

日立液晶テレビ
(地上・BS・110 度 CS デジタルハイビジョン液晶テレビ)

形名
23L-500LT
20L-510LT

取扱説明書

23L-500LT
20L-510LT

このたびは日立液晶テレビをお求めいただき、まことにありがとうございました。

最初に　**この取扱説明書に記載の「使用上のご注意」をお読みください。本体の取り扱いは、この取扱説明書をよくお読みになり、ご理解の上、正しくご使用ください。**
お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

付属品について

付属品をご確認ください。万一不足している物があれば、販売店にご連絡ください。

■取扱説明書（本書）および保証書は、よくお読みになって内容をご理解の上、いつでも確認できるところへ大切に保管してください。

お守りください

●電源コードと電源プラグアダプターは、必ず付属品をお使いください。
●付属品の電源コードと電源プラグアダプターは、本機以外の電気機器には使用しないでください。

本書の見かた

この説明書は、主に下記の内容で構成されています。

もくじ

使用上のご注意

商品本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）を理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示について

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷＊[1]を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害＊[2]を負う可能性が想定される内容および物的損害＊[3]のみの発生が想定される内容を示しています。

＊１：重傷とは失明や、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒など後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要すものを指しています。
＊２：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などを指しています。
＊３：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指しています。

図記号の例

 気をつけなければならない。「注意」を示します。

 感電に気をつけなければならない。「感電注意」を示します。

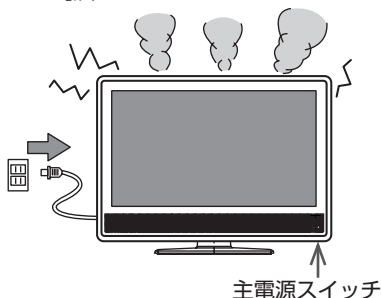
 してはいけない。「禁止」を示します。

 必ず行う。「強制」を示します。

安全上のご注意

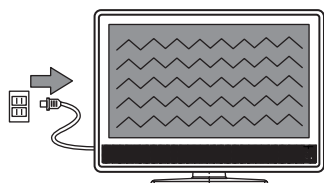
異常や故障のとき

⚠警告

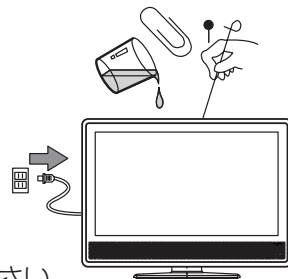
■煙が出ている、変なにおいや音がするときは、すぐに本機の主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

異常のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなることを確認して販売店に修理をご依頼ください。

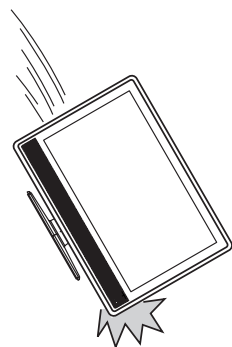
⚠注意

■画面が映らない、音が出ないなどの故障の場合には、すぐに本機の主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

それから販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■内部に水や異物などが入った場合は、すぐに本機の主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

それから販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

■本機を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに本機の主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

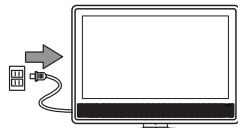
それから販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

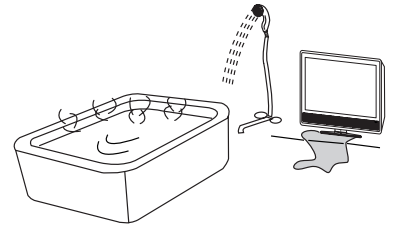
●イラストはイメージであり、実際の商品とは形状が異なる場合があります。

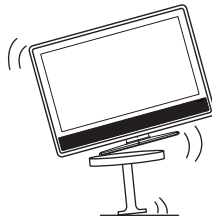
使用上のご注意（つづき）

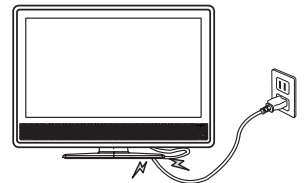
設置するとき

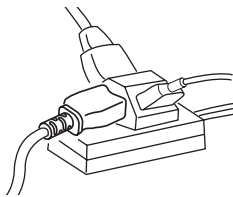
⚠警告

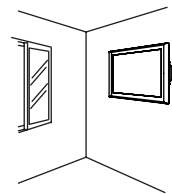
■電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付ける

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと、火災・感電の原因となることがあります。
本機は主電源スイッチが「切」の状態でも、極微弱な電流が流れています。

■風呂、シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

■ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■電源コードの上に重い物をのせたり、コードを本機の下敷きにしない

コードに傷が付いて、火災・感電の原因となります。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに重い物をのせてしまうことがあります。

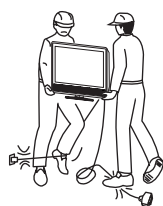
■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや交流 100V（50/60Hz）以外では使用しない

●たこ足配線など、定格を超えると発熱により、火災・感電の原因となります。
●表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。火災・感電の原因となります。

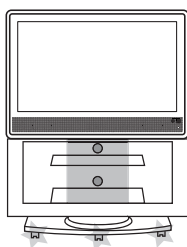
■壁に取り付ける場合は、必ず別売の専用の壁掛け金具を使用し、専門の業者に依頼する

専門業者以外の人が壁掛け金具を使用して設置すると、壁への取り付けがもろい場合に、本機が落下し、打撲や骨折など大けがの原因となります。

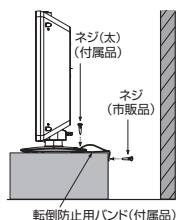
⚠注意

■湿気やほこりの多い場所、調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

■移動させる場合は、主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
●アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。
●本機は質量が大きく奥行きが無くて不安定なため、一人で作業をすると思わぬけがの原因になります。

■キャスター付きテレビ台に本機を設置する場合にはキャスター止めをする

動いて思わぬけがの原因となることがあります。

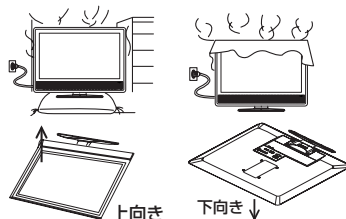
■転倒防止の処置を行う

テレビが転倒し、けがの原因となることがあります。

■本機を医療機器の近く（同部屋）には設置しないでください

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

■電源コードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

■本機の通風孔をふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。
また、本機の設置は、壁から左右 10cm 以上、上部は 30cm 以上離す。（壁掛け設置をする場合は除く）
特に次のような使いかたはしない。故障の原因となります。
●本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
●押入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
●じゅうたんや布団の上に置く。
●テーブルクロスなどを掛ける。

■本機を頭や顔、手足などをぶつけるような場所に設置しない

けがの原因になることがあります。
特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●壁掛け・天吊り据え付け時には、頭などをぶつけることのないように、取り付けの高さにご注意ください。

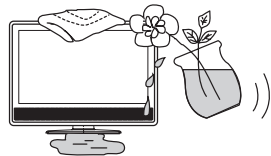
■アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください

●送配電線から離れた場所に設置する。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
● BS、CS 放送受信用アンテナは、強風の影響を受けやすいので、堅固に取り付ける。

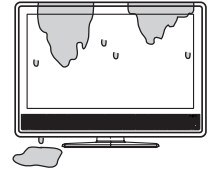
使用上のご注意（つづき）

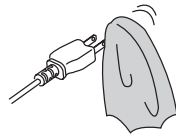
使用するとき

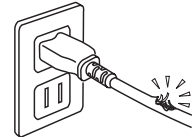
⚠警告

■本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

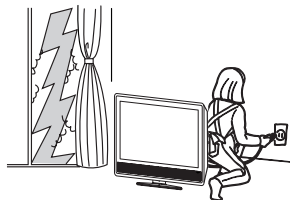
■本機に水をこぼしたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

火災・感電の原因となります。
●雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

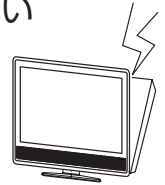
■電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除く

そのまま使用すると火災・感電の原因とります。
定期的（年に 1 回くらい）に清掃してください。

■電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない

コードが破損して、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。

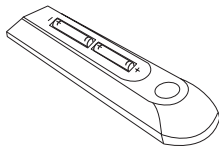
■雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れない

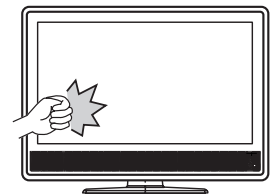
接触禁止

感電の原因とります。

■本機の裏ぶた、キャビネット、カバーは外さない、本機を改造しない

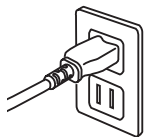
分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

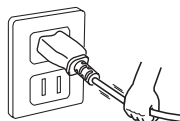
⚠注意

■間違った電池の使いかたをしない

●乾電池は充電しない。
●指定以外の電池は使用しない。
●新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
●極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

■前面パネルには、絶対に衝撃を加えない

本機の前面パネルをたたくなどして衝撃を加えるとパネルが割れ、火災・けがの原因となります。

⚠注意

■電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。
また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

■本機に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

■機器の近くにローソクなどの裸火を置かない

火災・感電の原因となることがあります。

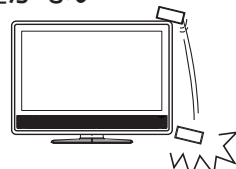
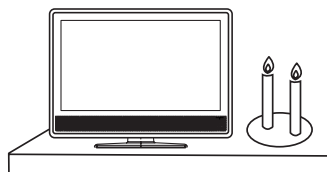
■電源プラグは根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しない

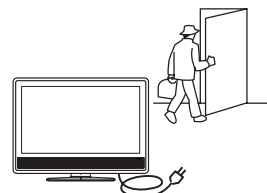
発熱して火災の原因となることがあります。
販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■本機の上に重い物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

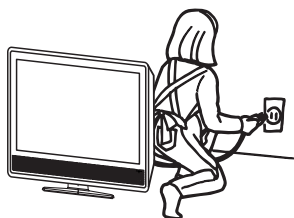
■旅行などで長時間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。

お手入れするとき

⚠注意

■お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行う

電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。

■年に一度くらいは、内部の掃除を販売店などにご相談ください

本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

使用上のご注意（つづき）

お守りください

■高温になるところに置かないでください
前面枠、バックカバーやその他の部品に悪い影響を与えますのでご注意ください。
●直射日光や熱器具の近くなど。

■平坦で安定する場所に設置してください
傾斜面や、平坦でない面、カーペットなどの柔らかい面、変形した面などへの設置をさけてください。
●テレビをフローリングに直接床置きすることはさけてください。フローリングの材質・表面状態によっては床面とスタンドのスベリ止めが強く密着し、テレビを持ち上げた際、フローリングの表面がはがれる場合があります。

■パネルを押したり、物をぶつけたりしないでください
液晶パネル表面には保護ガラスがありません。指・手などで押したり物をぶつけると、液晶セル・ガラスが破損し、故障やけがの原因となります。

■ B-CAS カード挿入口に異物を挿入しないでください
B-CAS カード以外の物を挿入しないでください。また、コインなどの金属物や異物を挿入しないでください。故障や破損の原因となります。

■パネルのお手入れは、柔らかい布で拭いてください
●本機のパネル表面は、特殊なフィルムやコーティングが施されています。お手入れの際には、柔らかい布（綿・ネル等）で軽く乾拭きしてください。
●硬い布で拭いたり、強く擦ったりしますと、パネル表面のフィルムや特殊コーティングが傷つきますのでご注意ください。
●指紋など油脂類の汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布をひたしよく絞ってから拭き取り、乾いた柔らかい布で仕上げてください。
●ガラス用クリーナーやスプレー式のクリーナーは、パネル表面が変質したり、フィルムや特殊コーティングがはがれたり、内部に侵入し、故障の原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
●化学ぞうきんやアルコール、ベンジン、シンナー、酸性 / アルカリ性 / 研磨剤入り洗浄剤などは、その成分により、パネル表面が変質したり、フィルムや特殊コーティングがはがれたり、変色する恐れがありますので、ご使用にならないでください。

■前面枠やバックカバーのお手入れの際、ベンジン、シンナーなどは使用しないでください
●前面枠やバックカバーの表面をベンジン、シンナーなどでふいたり、殺虫剤などの揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。変質したり、塗料がはがれるなどの原因となります。
●化学ぞうきんは、前面枠やバックカバーが変質する原因となりますのでご使用にならないでください。
●前面枠やバックカバー、操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときには、水で薄めた中性洗剤に布をひたしよく絞ってから拭き取り、乾いた布で仕上げてください。
特に、次の洗剤などは亀裂や変色、傷つきの原因となりますので使用しないでください。
・酸・アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、みがき粉、粉石鹸、OA クリーナー、カーワックス、ガラスクリーナー類、化学ぞうきんなど

■輸送する場合は、必ず本機用の梱包箱・クッションをご使用ください
●引越しや修理などで本機を運搬する場合は、本機用の梱包箱とクッション材をご使用ください。
●横倒しでの輸送はしないでください。パネルが破損する、または面欠点が増加する可能性があります。

■乾電池を廃棄する場合は、プラス・マイナス端子に絶縁テープを貼るなどして絶縁状態にしてから「所在自治体の指示」に従って廃棄してください
他の金属片等導電性のある物と一緒に廃棄したりするとショートして、発火、破裂の原因となることがあります。

■本機および本機の破片、付属品を廃棄するときは、必ず、販売店にご相談ください

■テレビをご覧になるときは、適度な距離と明るさでご覧ください
●画面の縦の長さの 3 ～ 7 倍離れた場所でご覧になれば、見やすくて目が疲れにくくなります。
●暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。
●長時間連続して画面を見ていると目が疲れます。時々、画面から離れて目を休めてください。

■適度な音量で隣り近所へ配慮してください
特に夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドフォンを利用したりして、隣り近所に対し十分の配慮をして、生活環境を守りましょう。

■スピーカー部のお手入れは布を使用しないでください
スピーカー部には小さな穴が開いており、布で拭くとホコリがセットの中に入ってしまいます。お手入れの際は先端に柔らかなブラシのついた掃除機で軽く吸い取ってください。

お知らせ

■電源の立ち上がりについて
本体の主電源スイッチで電源を「入」にすると、青い画面が数秒間表示されることがありますが、故障ではありません。

■面欠点について
パネルは、精密度の高い技術で作られていますが、画面の一部に欠点（光らない点）や輝点（余計に光る点）が存在する場合があります。これは故障ではありません。

■残像について
静止画（画面表示、放送局側から送られる時刻表示など）やメニュー表示を短時間（約 1 分程度）表示し、映像内容が変わったときに前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。故障ではありません。

■低温度環境での使用について
液晶の特性により、周囲温度が下がるにつれ、液晶の応答速度が遅くなり、映像が残像として見えることがありますが故障ではありません。常温環境下に戻し、しばらくすると回復します。

■パネル表面温度について
液晶テレビは、内蔵している蛍光ランプを点灯させることにより映像を表示しています。そのため、液晶パネルの表面温度が高くなる場合があります。

■本機の温度について
本機は、長時間使用したときなどに、上部やパネル表面が熱くなる場合があります。手で触れると熱く感じる場合もありますが、故障ではありません。また、熱で変形しやすい物（オーディオテープ、ビデオテープなど）を上に置かないでください。

■パネル駆動音について
視聴中に、「ジー」というパネルの駆動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

■電話回線の接続が必要です
デジタル放送では、電話回線を使って視聴記録データの送信や視聴者参加番組への参加などができるシステムを採用しています。本機には NTT の 2 線式公衆電話回線で、プッシュ式またはダイヤル式（10 PPS/20 PPS) の電話機に接続の電話線を分配して接続してください。また、接続した電話回線は異常が発生しない限り、取り外さないでください。不特定多数の人が利用する公衆電話や共同電話、および 2 線式電話回線と接続しない電話機（携帯電話、PHS など）では利用できない場合があります。

■視聴記録の送信について
B-CAS（ビーキャス）カードに記録される視聴記録データは、定期的に電話回線を通じ（株）B-CAS（ビーキャス）〔(株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ〕へ自動送信されます。データ送信の電話料金は無料ですが、データ送信中は、同じ回線に接続の電話機は使用できません。

■本機の電源プラグは常時コンセントに接続しておいてください
長期間留守にされる場合や本機に異常が発生したとき以外は、テレビの電源プラグをコンセントから抜いたままにしないでください。本機は電源オフ（スタンバイ）状態でも、自動的にデジタル放送の情報を受信したり、視聴記録の送信を行ったりする場合があります。

■ダウンロードについて
放送運用などに変更が生じた場合、本機のソフトウェアを更新して対応させるために、放送によるダウンロードサービスを行います。このサービスを受けるには、ご使用にならないときは、リモコンで電源を切った状態にしておくことをお勧めします。本体の主電源スイッチで電源を「切」にしたり、電源プラグを抜いた場合はこのサービスを受けられません。

使用上のご注意（つづき）

お知らせ（つづき）

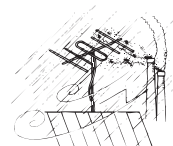
■天候不良によって、画質、音質が悪くなる場合があります

雨の影響により衛星からの電波が弱くなっている場合は、引き続き放送を受信できる降雨対応放送に切り換えます。（降雨対応放送が行われている場合）降雨対応放送に切り換わったときは、画面にメッセージが表示されます。
降雨対応放送では、画質や音質が少し悪くなります。また、番組情報も表示できない場合があります。

■ 110 度 CS デジタル放送をご覧になるには

110 度 CS デジタル放送に対応したアンテナが必要です。また、ブースターや分配器などをご使用の場合は、2150MHz またはそれ以上の周波数対応の伝送機器が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

■アンテナの点検・交換について

アンテナは風雨にさらされるため、美しい画像でお楽しみいただくためにも点検・交換することをおすすめします。
特に、煤煙の多い所、潮風にさらされる所では、アンテナが早く傷みますので、映りが悪くなった場合は、販売店にご相談ください。

■操作できなくなった場合は

受信異常などにより、本機の操作ができなくなった場合は、本体の主電源スイッチを切り、2 ～ 3 秒待ってから、再度主電源スイッチを入れてください。

■ラジオについて

本機の近くでラジオを使用しますと、ラジオの音声に雑音が入る場合があります。本機より離してご使用ください。

■本機の受信周波数帯域に相当する周波数を用いた機器とは離してご使用ください

本機の受信周波数帯域（470MHz ～ 2072MHz）に相当する周波数を用いた携帯電話などの機器を、本機やアンテナケーブルの途中に接続している機器に近づけると、その影響で映像・音声などに不具合が生じる場合があります。それらの機器とは離してご使用ください。また、アンテナの接続時にアンテナケーブルや分配器、分波器などの機器を使用する場合は、共聴用のものをご使用ください。

■赤外線通信機器について

赤外線コードレスマイクや赤外線コードレスヘッドフォンなどの通信機器は、通信障害により、使用できない場合があります。これは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

■本機に記憶される個人情報などについて

- 本機には、放送局とデータの送受信を行うために入力したお客様の個人情報が記録されます。本機を廃棄、譲渡等する場合には「登録データや受信設定などを初期化したいとき」64 を実施して、本機内のメモリーに記録されているデータを消去することを強くお勧めします。
- お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気などのノイズの影響を受けたとき、または故障、修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータなどが変化、消失する恐れがあります。これらの場合の損害や不利益について、当社は何ら責任を負うものではありません。

■ライセンス等について

- 本製品には、データ放送 BML ブラウザとして（株）ACCESS の NetFront DTV Profile を搭載しています。

- NetFront は株式会社 ACCESS の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品の一部分に Indepedent JPEG Group が開発したモジュールが含まれています。

ACCESS NetFront® DTV Profile

留意点

■付属のB-CAS（ビーキャス）カードは、デジタル放送を視聴していただくために、お客様へ貸与された大切なカードです。破損や紛失などの場合は、ただちにB-CAS（ビーキャス）「（株）ビーエス・コンディショナル アクセス システムズ」カスタマーセンターへご連絡ください。お客様の責任で破損、故障、紛失などが発生した場合は、再発行費用が請求されます。
■万一、本機の不具合により録画ができなかった場合の補償についてはご容赦ください。
■本機から電話回線などを通じて通信を行うと、通話料金無料のフリーダイヤルでないかぎり、電話料金はお客様の負担になります。
■国外でこの製品を使用して有料放送サービスを享受することは、有料サービス契約上禁止されています。
■この説明書に記載の画面イラストは、実際に表示される画面と異なる場合があります。チャンネル番号、チャンネル名、番組名などを含め、実際に表示される内容については画面でご確認ください。
■本機の仕様および機能などは、ダウンロードなどにより変更することがあります。
■ダウンロードとは、デジタル放送を受信してダウンロードデータを取り込み、本機のプログラムを最新のものに書き換える機能です。お買上げ時は自動的にダウンロードを「する」設定になっています。「しない」設定にもできますが、最新のプログラムでお楽しみいただくため、通常は「する」の設定でご使用ください。
■本機はインターネット網への接続機能がありません。データ放送の双方向サービスで一部お楽しみいただけない番組があります。
■本機には、専用プリンタをLANケーブルで接続しての印刷機能はありません。印刷機能のあるデータ放送番組での印刷はできません。

デジタル放送について

デジタル放送には、BS デジタル放送、110 度 CS デジタル放送および地上デジタル放送があります。
BS デジタル放送および 110 度 CS デジタル放送は、それぞれ東経 110 度に位置する放送衛星および通信衛星を利用したデジタル放送です。本機では、110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナを使用することで、両方の放送を受信することができます。また、地上デジタル放送は、UHF 帯域の電波を使って放送されますので、デジタル放送のチャンネルに対応した UHF アンテナを使用することにより、受信することができます。

デジタルハイビジョン放送 ……………………………………………………………

デジタルハイビジョンの放送フォーマットは走査線 1125 本（有効 1080 本）飛び越し走査の 1125i（1080i）と走査線 750 本（有効 720 本）順次走査の 750p（720p）放送の 2 種類があり、細部まできれいに表現され、臨場感豊かな映像を楽しめます。また、現行のテレビ放送とほぼ同等の画質のデジタル標準テレビ放送もあります。

多チャンネル放送 ……………………………………………………………

デジタル信号圧縮技術により、従来のアナログ放送と比較して多チャンネル放送がおこなえます。デジタルハイビジョン放送やデジタル標準テレビ放送の多チャンネル化のほかに、独立データ放送やデジタルラジオ放送もおこなわれます。

データ放送 ……………………………………………………………

文字や静止画によって必要な情報を選んで画面に表示させることができる新しい放送です。テレビ放送やラジオ放送の番組に連動したデータ放送と、独立したデータ放送の 2 種類のデータ放送があります。データ放送では、電話回線を使用した視聴者参加番組やショッピング、バンキングなどの双方向サービスもあります。(インターネット網への接続が必要な場合もあります。)

サラウンド・ステレオ ……………………………………………………………

音声信号圧縮技術 MPEG-2 AAC 方式の採用により、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声の番組も放送され、臨場感ある音声をお楽しみいただけます。ただし、5.1 チャンネルのサラウンド音声をお楽しみいただくには AAC 方式の光デジタル音声入力に対応したオーディオ機器を接続する必要があります。
[5.1 チャンネル：5 チャンネルステレオ + 低域強調チャンネル]

電子番組表（EPG：Electronic Program Guide） ……………………………………

デジタル放送では、それぞれの放送に対して約 1 週間分の番組情報が送られることがあります。電子番組ガイドを利用し、画面上にそれぞれのデジタル放送の番組表を表示させ、番組表から番組を選んで詳細情報を表示させたり、視聴したい番組を事前に予約したりすることができます。

BS デジタル放送について

BS デジタル放送は、東経 110 度に位置する放送衛星を利用したデジタル放送です。デジタルハイビジョン放送が中心であり、無料放送が多いのも特長です。（一部有料放送もあります）
基本的に放送事業者ごとの放送となるため、視聴契約や登録が必要な場合は放送事業者ごとに申し込みが必要です。

110 度 CS デジタル放送について

110 度 CS デジタル放送は、東経 110 度に位置する通信衛星を利用したデジタル放送です。BS デジタル放送とは異なり、デジタル標準テレビ放送が中心であり、映画、スポーツ、エンターテイメントなど有料専門チャンネルが多いのが特長です。（一部無料放送もあります）

地上デジタル放送について

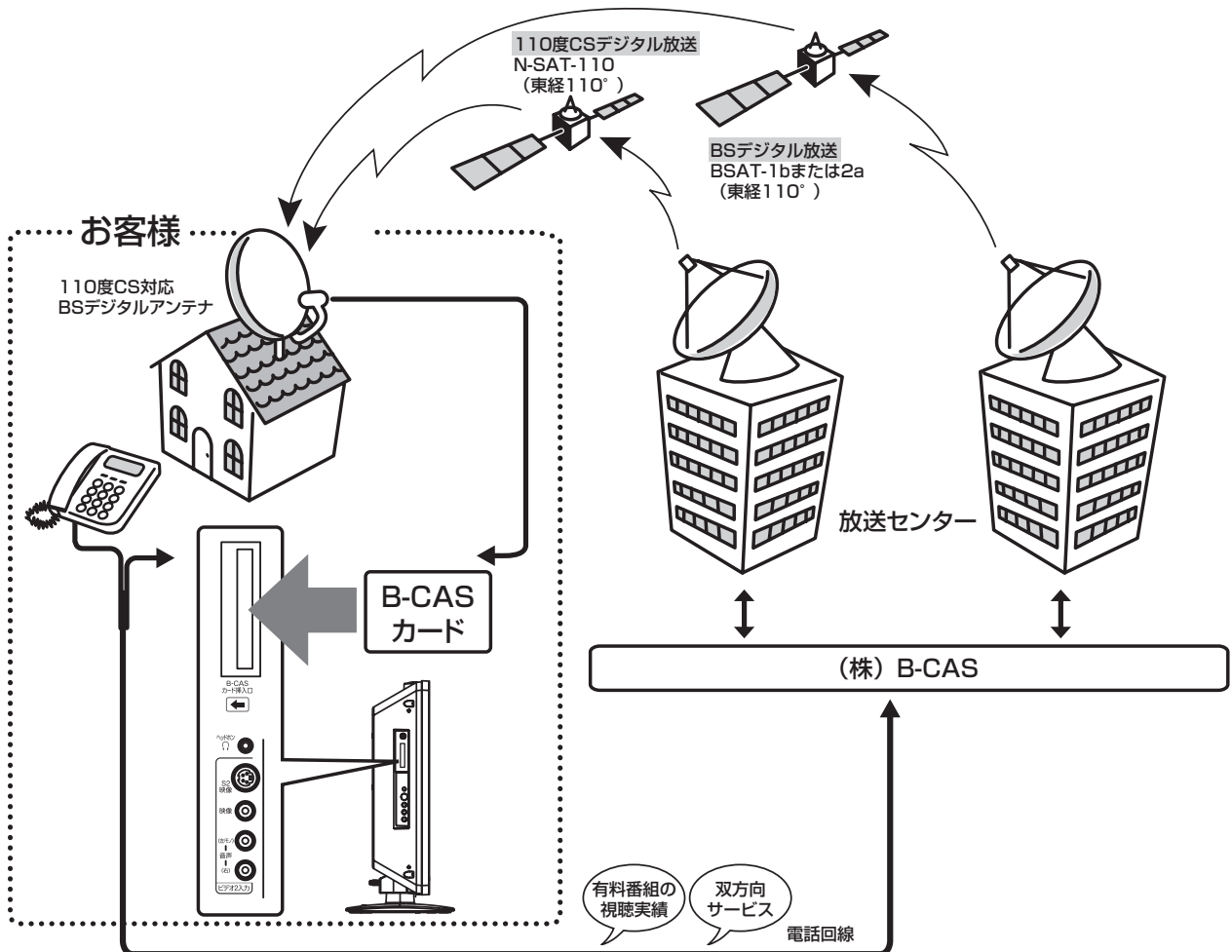
2003 年 12 月から順次、放送を開始している地上波の UHF 帯を使用したデジタル放送です。デジタルハイビジョン放送に加えて、データ放送や双方向データサービスなどがあります。地上アナログ放送に比べてゴーストなどの影響を受けにくいのも特長です。(有料放送はありません。)

お知らせ

110 度 CS デジタル放送は、従来の CS デジタル放送　スカイパーフェク TV!(スカパー !)（東経 128 度、124 度の JCSAT-3、JCSAT-4 を利用）とは異なる放送です。従来のスカイパーフェク TV!(スカパー !) 放送を受信するには、専用デジタルチューナーが必要です。本機では受信できません。

受信契約について

B-CAS カードによる限定受信システム（CAS）のしくみ

BS デジタル放送および 110 度 CS デジタル放送では、限定受信システム（CAS）により本機に付属の B-CAS カードを挿入しておくと、有料番組の契約や購入状況情報が B-CAS カードに記憶されます。その情報は電話回線を使って（株）B-CAS へ自動送信され、管理されます。

B-CAS カードの登録

本機に付属の B-CAS カードの台紙の一部がユーザー登録用はがきになっています。台紙に記載の文面をよくお読みの上、ユーザー登録はがきに必要事項を記入・押印してポストに投かんし、B-CAS カードを必ず登録してください。（登録料は無料です）

デジタル放送を視聴する場合には、必ず B-CAS カードを挿入してください。

B-CAS カードは、有料放送の課金や放送局からのメッセージの管理等のほか、著作権保護の為のコピー制御にも利用されています。

受信契約について（つづき）

BS デジタル放送の有料放送視聴の手続きについて

●WOWOW、スター・チャンネルなどの BS デジタル放送の有料放送サービスを受信するためには、B-CAS カードの登録のほかに、個別の受信契約が必要となります。
●有料放送を視聴するには、お客様の視聴したい番組を放送している放送局へ加入申し込みをして契約する必要があります。本機に同梱されている加入契約書に必要事項をご記入の上、ポストに投かんしてください。
●詳しくは、それぞれの有料放送を行う放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。
●お問い合わせの際は、電話番号はお間違えのないようにお願いいたします。

2007 年 12 月現在の BS デジタル放送局（ＮＨＫと有料放送局）の電話番号、ホームページアドレスおよびチャンネル番号は、次のようになっております。

<table>
<tr><th>BS 放送局</th><th>お問い合わせ電話番号／
ホームページアドレス</th><th>BS 放送局</th><th>お問い合わせ電話番号／
ホームページアドレス</th></tr>
<tr><td>NHK BS1
NHK BS2
NHK デジタルハイビジョン
（101、102、103ch）</td><td>0120 − 151515
（受信契約専用フリーダイヤル）
受付時間　9:00 〜 20:00（年中無休）
http://www.nhk.or.jp/</td><td>WOWOW
（191、192、193ch）</td><td>0120 − 480801（フリーダイヤル）
受付時間　9:00 〜 20:00（年中無休）
http://www.wowow.co.jp/</td></tr>
<tr><td colspan="2">NHK 衛星放送受信契約をされていないかたは、NHK と衛星放送受信契約が必要です。</td><td colspan="2">WOWOWはテレビ放送のみの視聴申し込みが必要な放送です。
独立データ放送（791ch）は無料放送です。</td></tr>
<tr><td>スター・チャンネル
総合案内窓口
（200ch）</td><td>03 − 5563 − 6777
受付時間　10:00 〜 18:00（年中無休）
http://www.star-ch.co.jp/
スターチャンネル BS に関わるお問い合わせは、e2 by スカパー！カスタマーセンターにお願いいたします。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スター・チャンネル BS はテレビ放送のみの視聴申し込みが必要な放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。</td><td></td><td></td></tr>
</table>

お知らせ

● NHK では、BS デジタル放送のメッセージ機能を利用して受信確認を行っています。すでに NHK と衛星放送受信契約されていても、本機に同梱されている「B-CAS カードユーザー登録はがき」をお送りいただけない場合、または、はがきを送っても下部の「はい」に○がついていない場合は、B-CAS カードを挿入して 30 日経過後、NHK − BS デジタル放送のチャンネルに合わせると、画面左下にＮＨＫへのご連絡をお願いするメッセージが表示されます。このメッセージは、画面に表示される NHK のフリーダイヤルにお電話いただき、B-CAS カード番号、住所、お名前、電話番号などをお伝えいただければ、表示されなくなります。
●一部のデータ放送など、無料放送でもユーザー登録が必要な場合があります。詳しくは、それぞれの放送局へお問い合わせください。

110度CSデジタル放送の有料放送視聴の手続きについて

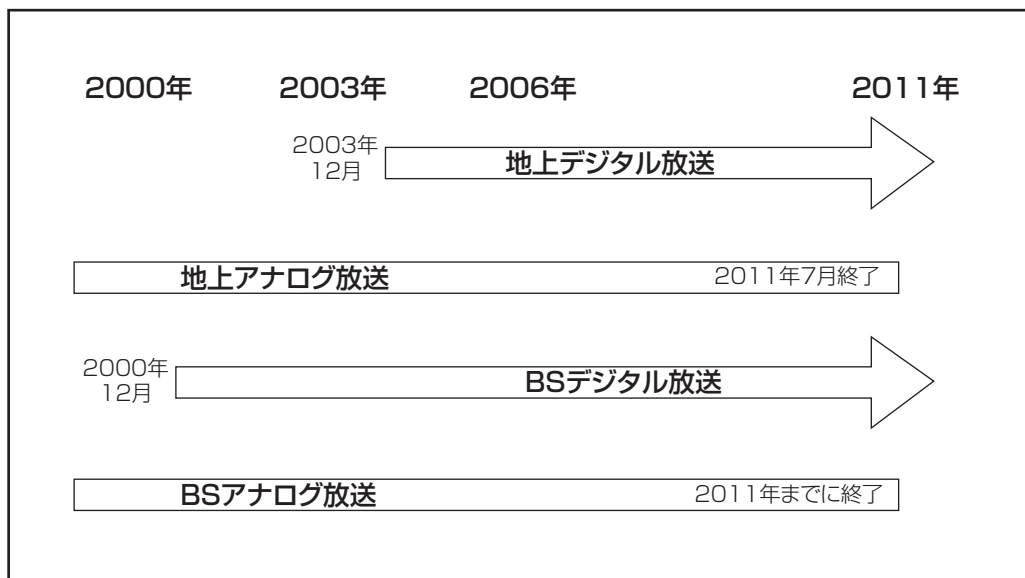
- 110度CSデジタル放送の有料放送サービスを受信するためには、BSデジタル放送と異なり、個別チャンネルの放送事業者毎ではなく、「e2 by スカパー！(旧スカパー!110)」が、放送チャンネル受信契約の代行を行うこととなります。
- 110度CSデジタル放送では、チャンネル毎の受信契約のほかに、個別に契約申込されるよりも視聴料金がお得なパック契約が用意される場合があります。
- 詳しくは、カスタマーセンターへお問い合わせください。
- お問い合わせの際は、電話番号はお間違えのないようにお願いいたします。

2007年12月現在の110度CSデジタル放送のカスタマーセンター電話番号とホームページアドレスは次のようになっておりま

110度CSデジタル放送	お問い合わせ電話番号／ホームページアドレス
e2 by スカパー！カスタマーセンター	0570－08－1212 PHS,IP電話のお客様は 045-276-7777 受付時間　10:00～20:00（年中無休） http://www.e2sptv.jp/

アナログ放送からデジタル放送への移行について

デジタル放送への移行スケジュール

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で 2003 年 12 月から開始され、その他の都道府県の県庁所在地は 2006 年末までに放送が開始されました。今後も受信可能エリアは順次拡大されます。
この放送のデジタル化に伴い、地上アナログ放送は 2011 年 7 月までに、BS アナログ放送は 2011 年までに終了することが、国の法令によって定められています。

お知らせ

- 地上デジタル放送は、現在の地上アナログ放送との混信をさけるために、当初は非常に小さな出力で放送が開始され、段階的に送出出力が上げられていく予定です。このため、放送開始当初は受信エリアが限定されます。
- ブースターなどをご使用されている場合は、段階的に送出出力が上げられた際に、ご使用のブースターなどのレベル調整が必要な場合があります。このような場合は、お買い上げの販売店またはアンテナ工事業者にご相談ください。

テレビを設置する

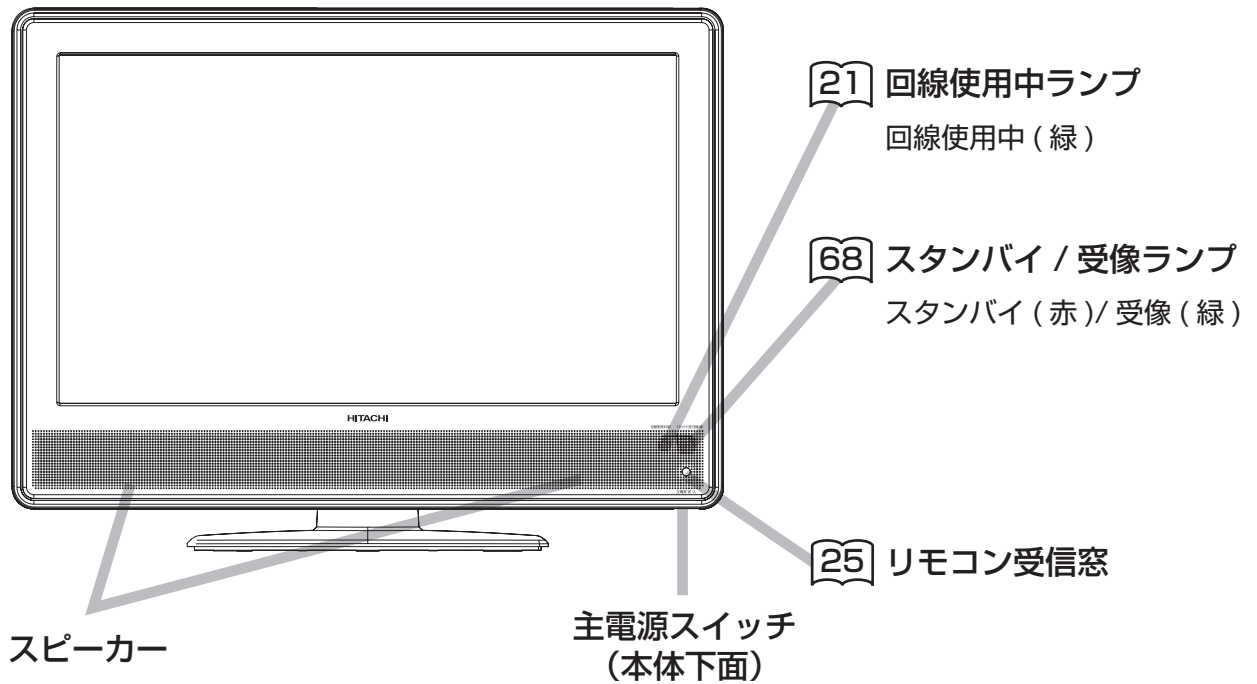
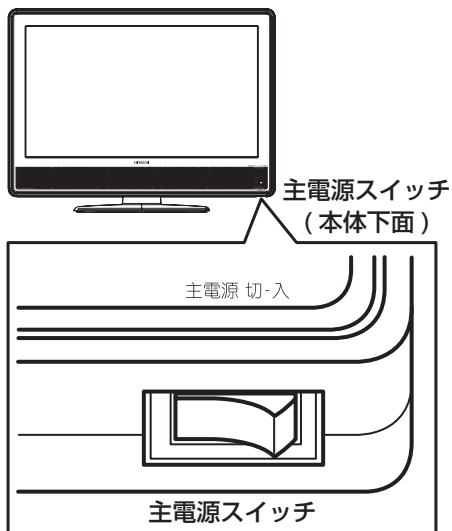
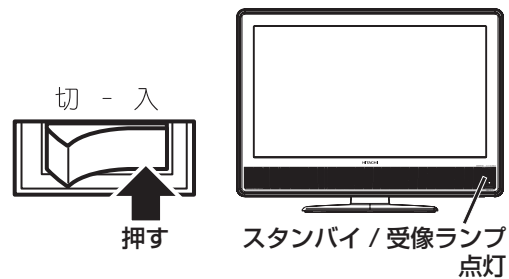
各部のなまえ

リモコン

メ　モ

参照ページマークについて

マークは、取扱説明書（本書）の参照ページを表しています。

本体　前面

※本機の「回線使用中」のランプが点灯している場合は、電話機をご使用にならないでください。
本機からの通信が正しくできないことがあります。

お知らせ

操作ができなくなった場合は
本体の主電源スイッチで電源を「切」にし、スタンバイ / 受像ランプが消灯してから再度、主電源スイッチを「入」にしてください。

各部のなまえ（つづき）

本体　側面

1

本体　上面

本体　後面

1

2

35 ビデオ 1 入力端子

33 HDMI 映像・音声入力端子

26 UHF/VHF 混合アンテナ端子

HDMI映像・音声入力

ビデオ入力1

映像　(左/モノ)ー音声ー(右)

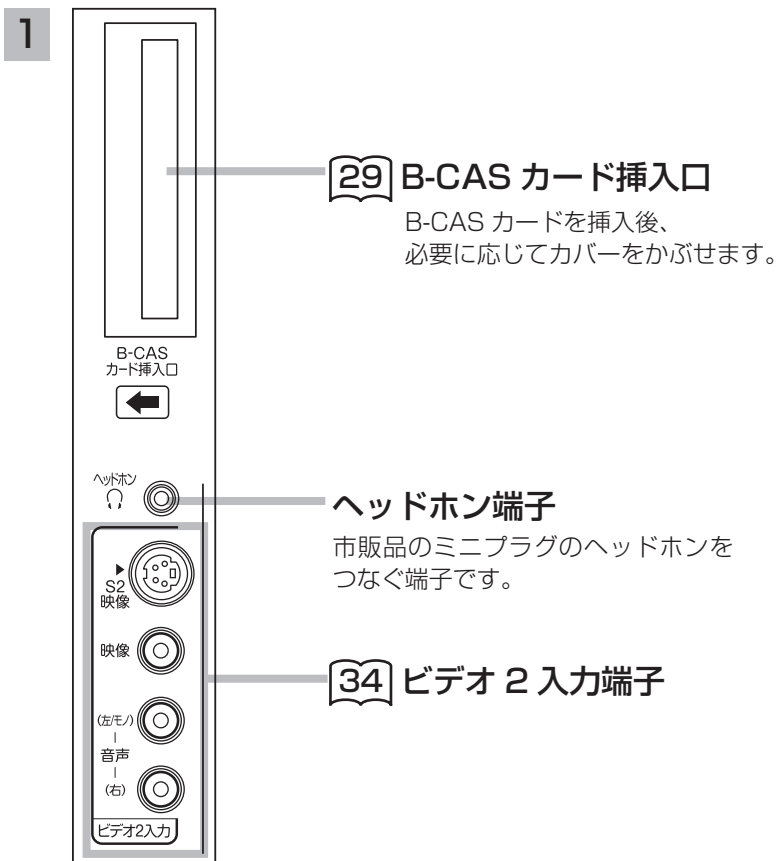
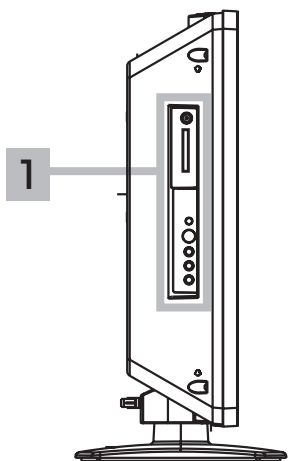
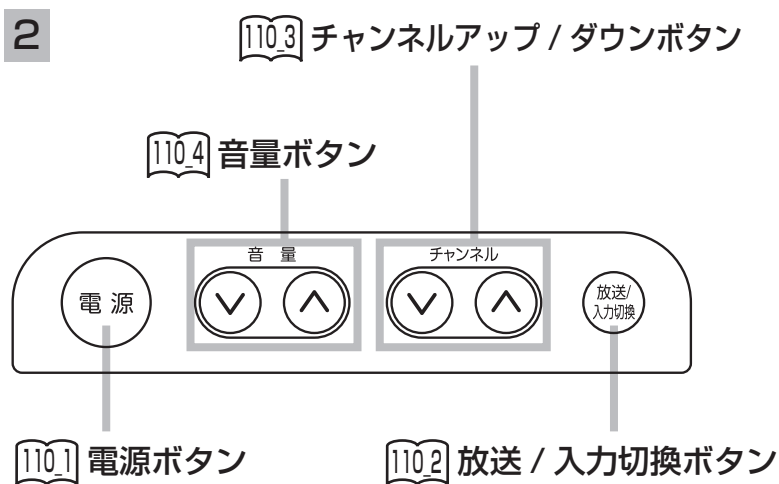
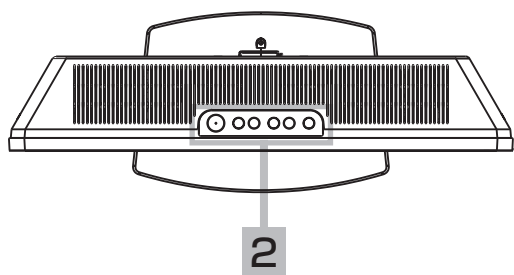
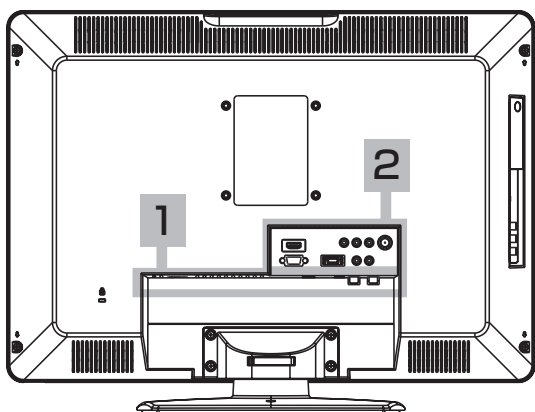
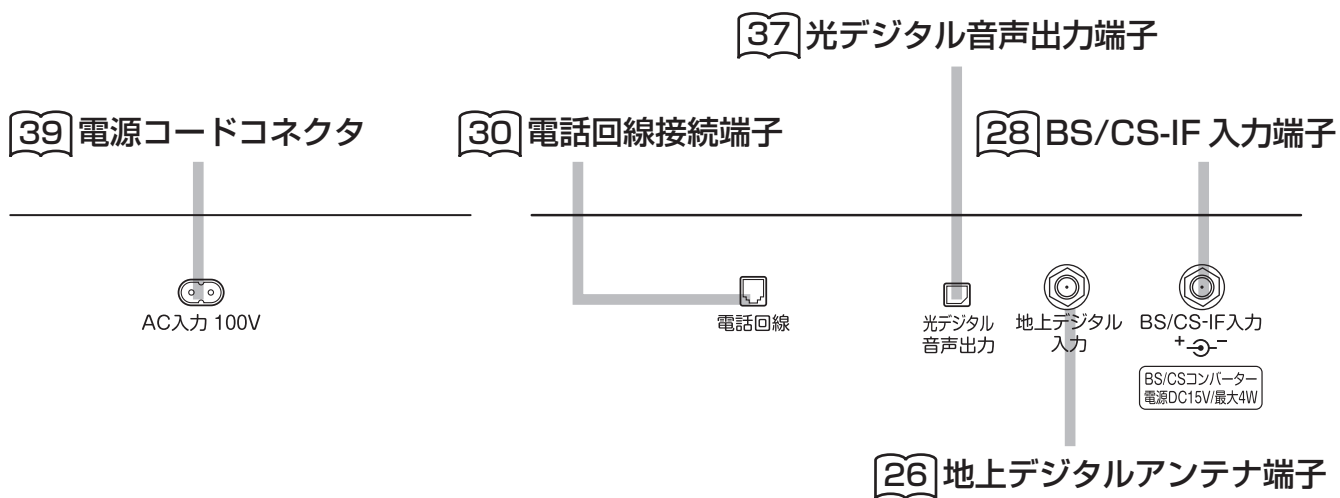
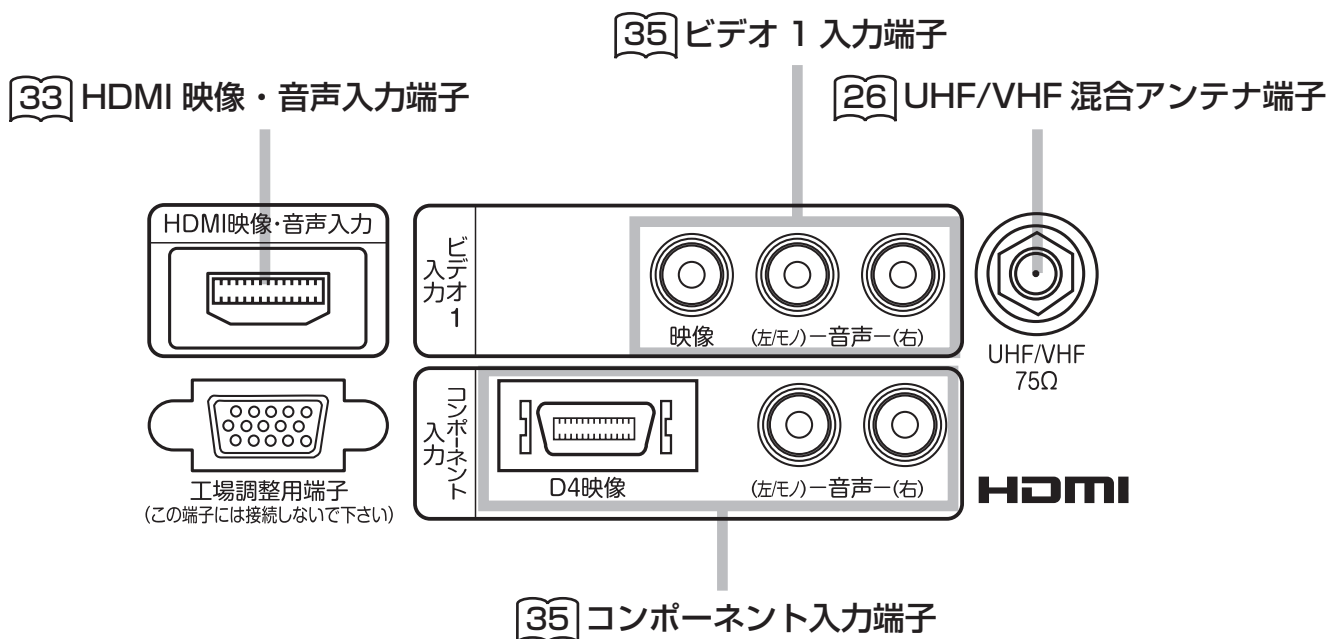
UHF/VHF
75Ω

コンポーネント入力

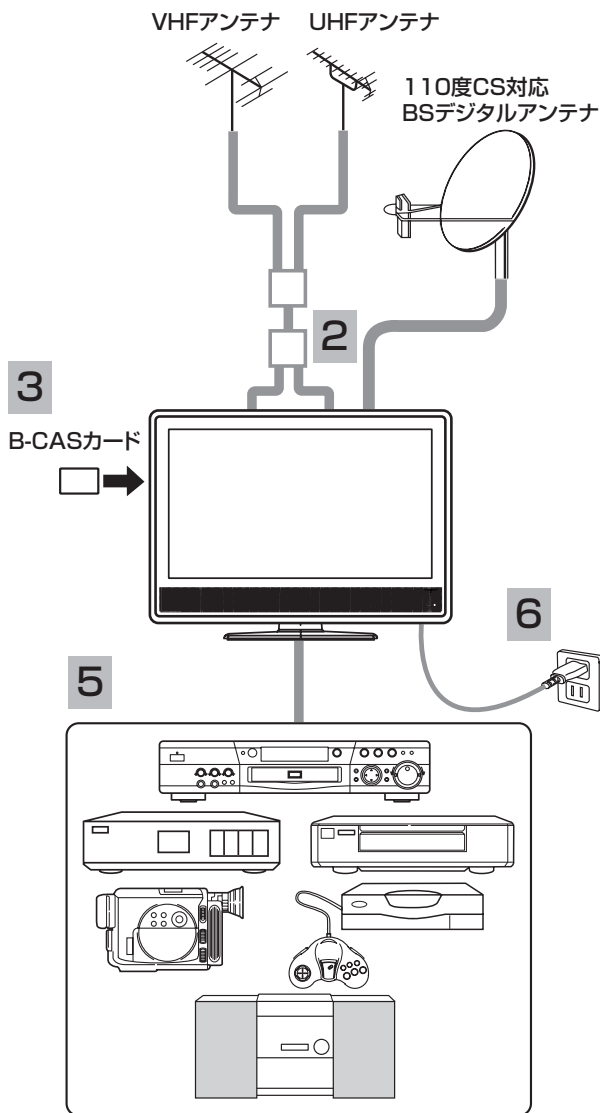
D4映像　(左/モノ)ー音声ー(右)

工場調整用端子
(この端子には接続しないで下さい)

HDMI

35 コンポーネント入力端子

設置と準備の進めかた

重要 本機の設置やアンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
（設置・準備費用については、お買上げの販売店にご相談ください。）

ご自分で設置と準備をされるときは、下記の順番で作業してください。

1 付属品を確認し、リモコンに電池をいれます 25

2 アンテナ線と本機を接続します 26

3 B-CAS カードを挿入します（重要）29

4 電話回線を接続します 30

5 お手持ちの機器を接続します 31
- ■ ビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器 32
  ※本機にはモニター出力端子がありませんので、本機から録画することはできません。
- ■ HDMI 出力対応の DVD レコーダーなど 33
- ■ ビデオカメラ 34
- ■ DVD プレーヤー 35
- ■ ゲーム機と接続 36
- ■ デジタル音声入力端子付きオーディオ機器 37
- ■ CATV ホームターミナル 38

6 電源プラグをつなぎます 39

7 電話回線を設定します 45

8 お住まいの地域に合わせて受信設定をします 52, 55

9 ダウンロード設定 63 をします

地上デジタル放送を受信するには

地上デジタル放送を受信するには、下記の要件がすべて整っていることが必要です。

1. 受信地点は、すでに放送地域になっていますか？
2006 年 12 月から全国の都道府県庁所在地において地上デジタル放送が見られるようになりました。その後、その受信可能エリアは順次拡大される予定です。地上デジタル放送の受信エリアの目安は、総務省またはお近くの地方総合通信局にお問い合わせください。

2. UHF アンテナは、地上デジタル放送に対応していますか？
UHF アンテナには全帯域型と帯域専用型がありますので、全帯域型または地上デジタル放送対応型をご使用ください。

3. UHF アンテナは、地上デジタル放送の送信塔の方向に向いていますか？
現在お住まいの地域で、地上デジタル放送の送信塔が地上アナログ放送と同じ方向の場合は、そのままの向きで地上デジタル放送を受信できますが, 送信塔の方向が違う場合は、アンテナの向きを地上デジタル放送の送信塔の方向に変更する必要があります。

4. 地上デジタル放送受信機の入力信号は、所要の信号強度がありますか？
地上デジタル放送は、現在のアナログ放送との混信を避けるために、当初は非常に小さな出力で放送されますので、受信エリアが限定されます。また、受信エリア内であっても、地形やビル陰などによって電波がさえぎられる場合や電波の伝搬状況などにより、視聴できない場合があります。

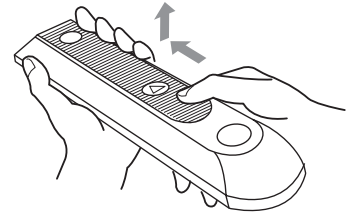
●ケーブルテレビまたは共聴・集合住宅施設でご視聴のかたは、ケーブル事業者または共聴施設管理者にお問い合わせください。

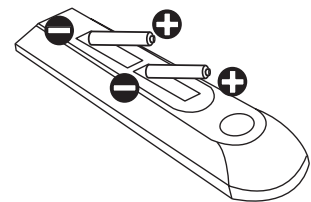
●地上デジタル放送を受信するためには、最初に「受信地域の設定」55 の設定と「受信チャンネルのスキャン」56 の操作が必要です。

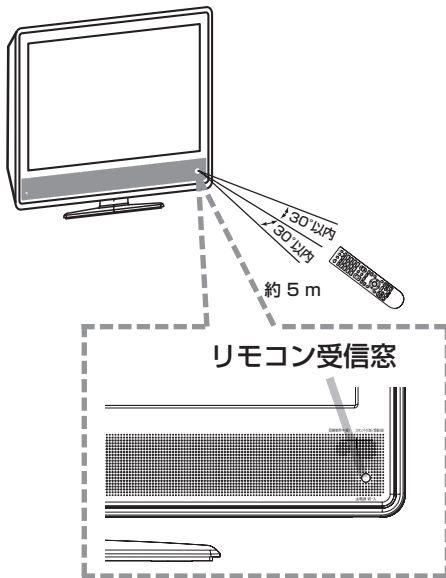
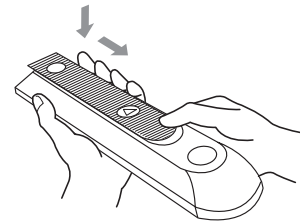
リモコンの取り扱い

⚠注意
乾電池の使用上のご注意
●本機で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となることがあります。
●電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、リモコンの表示どおり正しく入れてください。まちがえますと電池の破裂、液もれにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
●付属の乾電池は保存状態により短時間で消耗することがあります。その場合は新しい乾電池と交換してください。

1 電池ぶたをはずす

矢印の方向に押しながら開けます。

2 乾電池を入れる

付属の単３形乾電池を⊕、⊖の表示どおりに入れます。

3 電池ぶたを閉める

電池ぶたを矢印の方向に押して戻します。

●リモコンは、本機のリモコン受信窓に向けて操作します。
●リモコンは、それぞれのリモコン受信窓の正面から約５メートル、左 30 度、右 30 度の範囲内でお使いください。

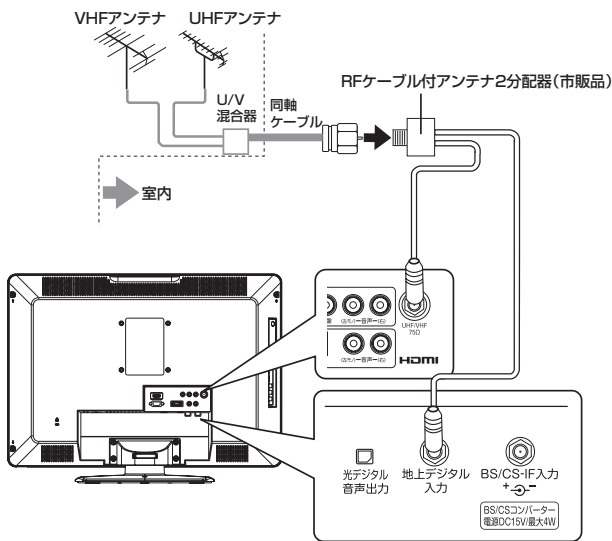
お守りください **リモコンの使用上のご注意**
●リモコンを落としたり、衝撃を与えないでください。
●リモコンに水をかけたり、ぬれた物の上に置かないでください。故障の原因になります。
●長時間ご使用にならない場合は、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
●リモコンの操作がしにくくなった場合は、乾電池を交換してください。
●リモコン受信窓に直射日光などの強い光が当たると動作しなくなることがあります。光が直接当たらないようにテレビの向きを変えてください。
●電子レンジなどの加熱料理器に、リモコン送信機・乾電池を入れて加熱しないでください。発熱により火災・故障の原因となります。

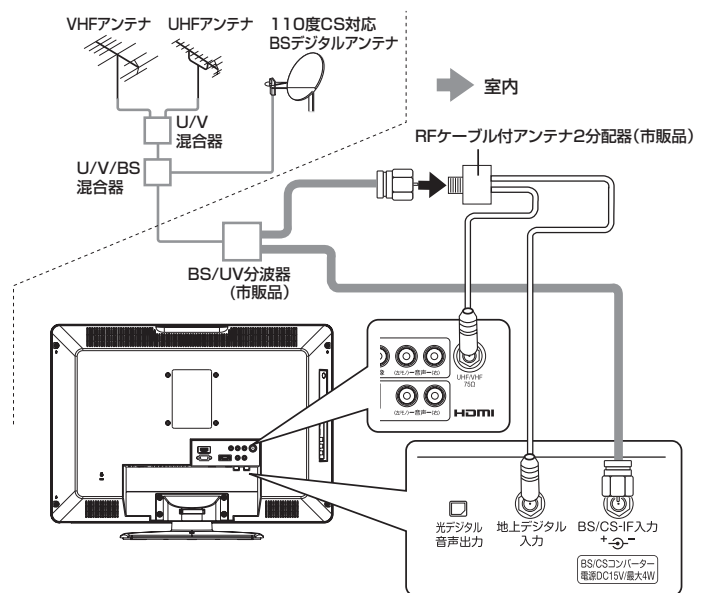
アンテナと接続する

⚠注意
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

①アンテナの種類に応じ、下図の要領で UHF/VHF 混合アンテナ端子に接続してください。
②地上デジタル放送を受信するときは、UHF アンテナを使用します。VHF アンテナでは受信できません。また、現在お使いのアンテナが UHF アンテナでも、調節や取り替えが必要な場合もありますので、その際は、販売店にご相談ください。
③本機の UHF/VHF 混合アンテナ端子への接続に市販品の U/V 混合器やアンテナアダプターを使用する場合は、できるだけ本機より離して接続してください。
④ UHF/VHF アンテナが独立のときなど、混合器の取り付けが必要な場合は、販売店にご相談ください。
⑤ CATV ケーブルと接続するときは、伝送方式や接続について詳しくは CATV 会社にお問い合わせください。

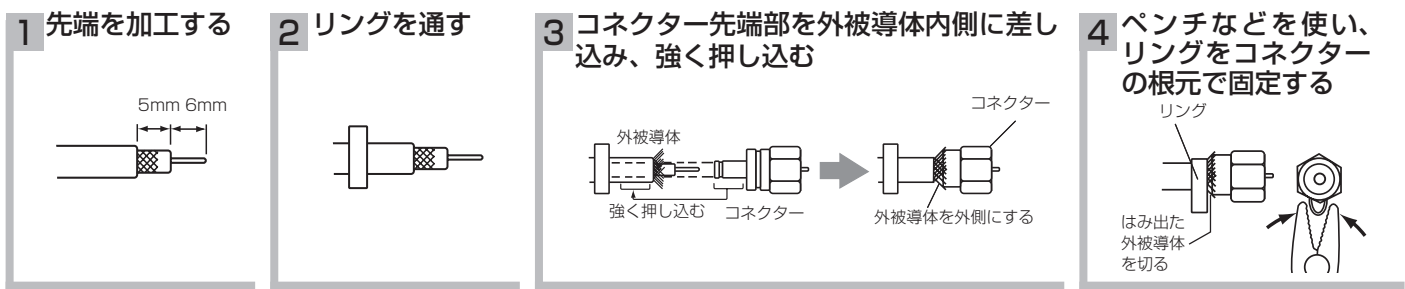
UHF/VHF アンテナの接続

UHF/VHF アンテナが混合のとき

① アンテナ 2 分配器（市販品）の RF ケーブルを UHF/VHF 混合アンテナ端子と地上デジタル入力端子それぞれに接続する。
② U/V 混合器の出力またはお部屋のアンテナ端子とアンテナ 2 分配器（市販品）の IN 端子を同軸ケーブル線で接続する。

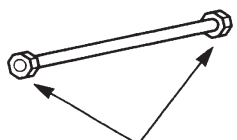
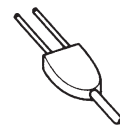
BS・CS が混合のとき（例：UHF/VHF/BS 混合入力）

① アンテナ 2 分配器（市販品）の RF ケーブルを UHF/VHF 混合アンテナ端子と地上デジタル入力端子それぞれに接続する。
② BS/UV 分波器の UV 出力とアンテナ 2 分配器（市販品）の IN 端子を同軸ケーブル線で接続する。

お守りください

アンテナ線接続時のご注意
●アンテナ線には、妨害の少ない同軸ケーブルの使用をおすすめします。
（平行フィーダーを使用しますと受信状態が不安定となり、妨害電波を受けやすく、画面にしま模様が現れたりします。）
●やむを得ず平行フィーダーを使用する場合は、本機よりできるだけ離してください。
●室内アンテナも妨害電波を受けやすいので、お避けください。
●アンテナ線に対して、電源コードや他の接続コード類をできる限り離してください。

F 形接栓（市販品）の接続

きれいな映像を楽しむために

きれいな映像をお楽しみいただくには、アンテナ線や各種ケーブル類の接続状態が非常に大切です。

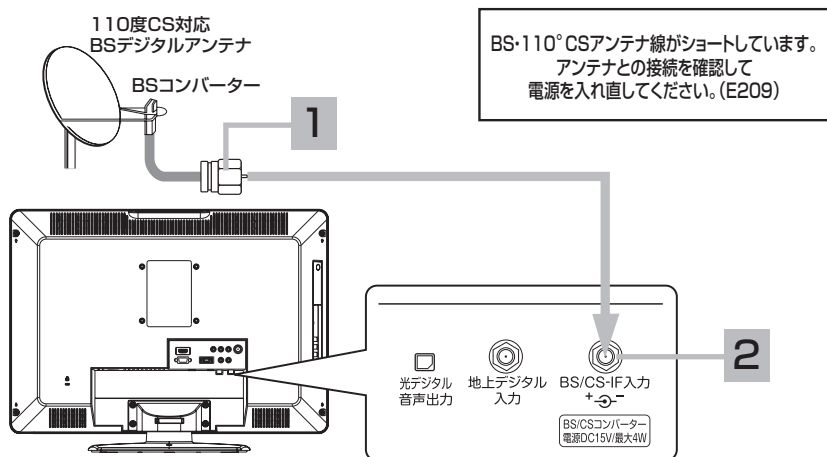
●アンテナ線は同軸ケーブルに F 形接栓を接続して使用することをおすすめします。

●市販品の BS/UV 分波器・分配器はシールドタイプの使用をおすすめします。

CATV ケーブルと接続するときの地上デジタル放送受信について

CATV には、以下のような地上デジタル放送の伝送方式があります。詳しくは、CATV 会社にお問い合わせください。

伝送方式	本機の対応
トランスモジュレーション方式	UHF 帯の地上デジタル放送をケーブルテレビ局の電波に変換して伝送します。本機のアンテナ端子に接続しても地上デジタル放送を受信できません。CATV のホームターミナルと接続してください。(38 をご覧ください)
同一周波数パススルー方式	UHF 帯の地上デジタル放送を変換しないでそのまま伝送します。本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して地上デジタル放送を受信することができます。
周波数変換パススルー方式	UHF 帯の地上デジタル放送を CATV で伝送可能な別の周波数に変換して伝送します。本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して地上デジタル放送を受信することができます。

アンテナと接続する（つづき）

BS/CS アンテナの接続

接続するときには安全のため、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。下記メッセージが表示される場合は、テレビの電源を切ってから 110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナを確認し、もう一度電源を入れてください。現象がなおらない場合は、「アンテナ電源設定」60 を「オフ」に設定して、お買い上げの販売店にご相談ください。

1 BS/CS アンテナ線の同軸ケーブルを F 形接栓（市販品）に接続する

UHF、VHF、BS が混合されているときには、BS/UV 分波器 (市販品) が必要です。 26

2 F 形接栓 (市販品) を BS/CS-IF 入力端子に接続する

BS/CS-IF 入力端子は、BS コンバーターからの信号を受けるための端子です。また、この端子から BS コンバーターに DC ＋ 15V を供給します。BS アンテナ線を接続するときには必ずテレビの電源を切ってください。

⚠注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

お守りください

●共聴受信等で視聴される（電源供給を必要としない）場合には、「アンテナの設定を変更する」60 をご覧になって、アンテナ電源の設定を必ず「オフ」にしてご使用ください。
●アンテナを接続するときは、安全のため、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
● BS/CS-IF 入力端子に F 形接栓を接続するときは、手で緩まない程度に締めつけてください。締めつけすぎると本機内部が破損する場合があります。

アンテナ線の接続についてのご注意

衛星放送を分配して他の機器で (衛星放送を) 視聴する場合、分配器は必ず多端子タイプの電流通過形をご使用ください。多端子タイプ電流通過形でない場合は、アンテナに供給している機器の電源を切ると、他の機器で衛星放送が受信できなくなります。

お知らせ

●アナログ CS 用アンテナや従来のスカイパーフェク TV ！用アンテナ（JCSAT-3、JCSAT-4 受信用）はご使用になれなせん。110 度 CS デジタル放送を受信する場合は、110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナをご使用ください。
●ブースターや分配器をご使用になる場合は、110 度 CS 対応（周波数 2,150MHz 対応以上）であることをご確認の上、ご使用ください。従来の BS 用で周波数帯域が 1,335MHz のものや、CS 対応でも対応周波数が 1,895MHz などの 2,150MHz 未満のものをご使用になった場合、110 度 CS デジタル放送の一部もしくはすべてのチャンネルが受信できない場合があります。
●マンションなどの共同受信システムの場合で、110 度 CS デジタル放送に対応していない場合は、110 度 CS デジタル放送を受信できません。
● BS アンテナを使用する場合は、BS デジタル放送のみの受信が可能です。この場合、従来の BS アンテナのほとんどは使用できますが、一部の BS アンテナでは性能の劣化や BS デジタル放送受信に必要な性能が確保されず、BS デジタル放送を受信したとき、安定した受信ができないときがあります。このようなときは、BS アンテナ製造元のお客様窓口や、BS アンテナを購入した販売店などにお問い合わせください。

メ　モ

BS/CS アンテナ線の接続についてのお願い

● F 形接栓（市販品）をご使用ください。
●アンテナの方向調整、設置についてはアンテナの取扱説明書をご覧いただくか、お買い上げの販売店にご相談ください。

映りがよくないときには

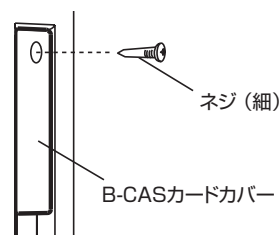
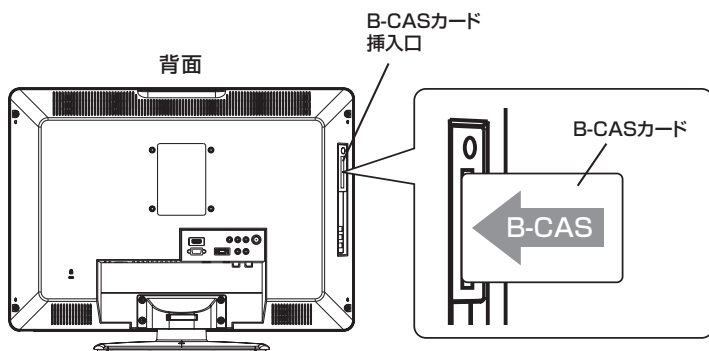
衛星放送の電波は微弱なため、受信するにはアンテナ、チューナーなどの正確な調整が必要です。もし、時々映像や音声が出なくなったりするときは販売店にご相談ください。また、雷雨や豪雨のような強い雨が降ったり、雪がアンテナに付着すると電波が弱くなり、一時的に画面や音声が止まったり、ひどい場合にはまったく受信できないことがあります。これは、気象条件によるもので、アンテナやチューナーの故障ではありません。

B-CAS カードを挿入する（重要）

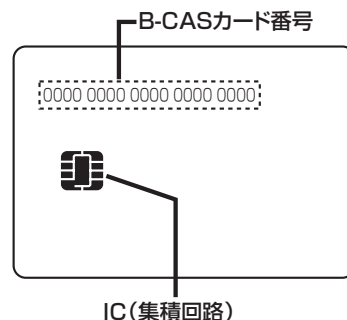
本機に付属の B-CAS カードは、本機の電源プラグを電源コンセントに接続しない状態で、下記の手順に従って挿入してください。

1 B-CAS カードを挿入する

絵柄表示が見える面を背面側にして、B-CAS カード表面の矢印向きを挿入口へ合わせ、挿入が止まるまでゆっくりと確実に差し込む。

付属の B-CAS カード挿入口カバーを必要に応じてお使いください。

B-CAS カードについて

本機に付属の B-CAS カードには 1 枚ごとに違う番号（B-CAS カード番号）が付与されています。B-CAS カード番号はお客様の有料放送契約内容などを管理するために使われている大切な番号です。「（株）ビー・エス・コンディショナルアクセスシステムズカスタマーセンター」への問い合わせの際にも必要となります。
本機に付属の B-CAS カードの台紙の一部がユーザー登録用はがきになっています。台紙に記載の文面をよくお読みの上、ユーザー登録はがきに必要事項をご記入・押印してポストに投かんし、B-CAS カードを必ず登録してください。（登録料は無料です。）

■ B-CAS カードについてのお問い合わせ（紛失など）
（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ　カスタマーセンター
TEL : 0570-000-250

お守りください

B-CAS カード取り扱い上の留意点

- B-CAS カードを折り曲げたり、変形させないでください。
- B-CAS カードの上に重い物を置いたり踏みつけたりしないでください。
- B-CAS カードに水をかけたり、ぬれた手でさわらないでください。
- B-CAS カードの IC（集積回路）部には手をふれないでください。
- B-CAS カードの分解加工は行わないでください。
- B-CAS カードは上記手順をご覧の上、本機前面の B-CAS カード挿入口に、奥まで正しく挿入してください。B-CAS カードを正しく挿入しないと、有料放送や一部のデータ放送を視聴することができません。
- ご使用中に B-CAS カードの抜き差しはしないでください。デジタル放送が視聴できなくなる場合があります。

B-CAS カードを抜くとき

万一、抜く必要があるときは、本機の電源プラグを電源コンセントから抜いたあと、ゆっくり B-CAS カードを抜いてください。B-CAS カードには IC（集積回路）が組み込まれているため、画面に B-CAS カードに関するメッセージが表示されたとき以外は、抜き差しをしないでください。

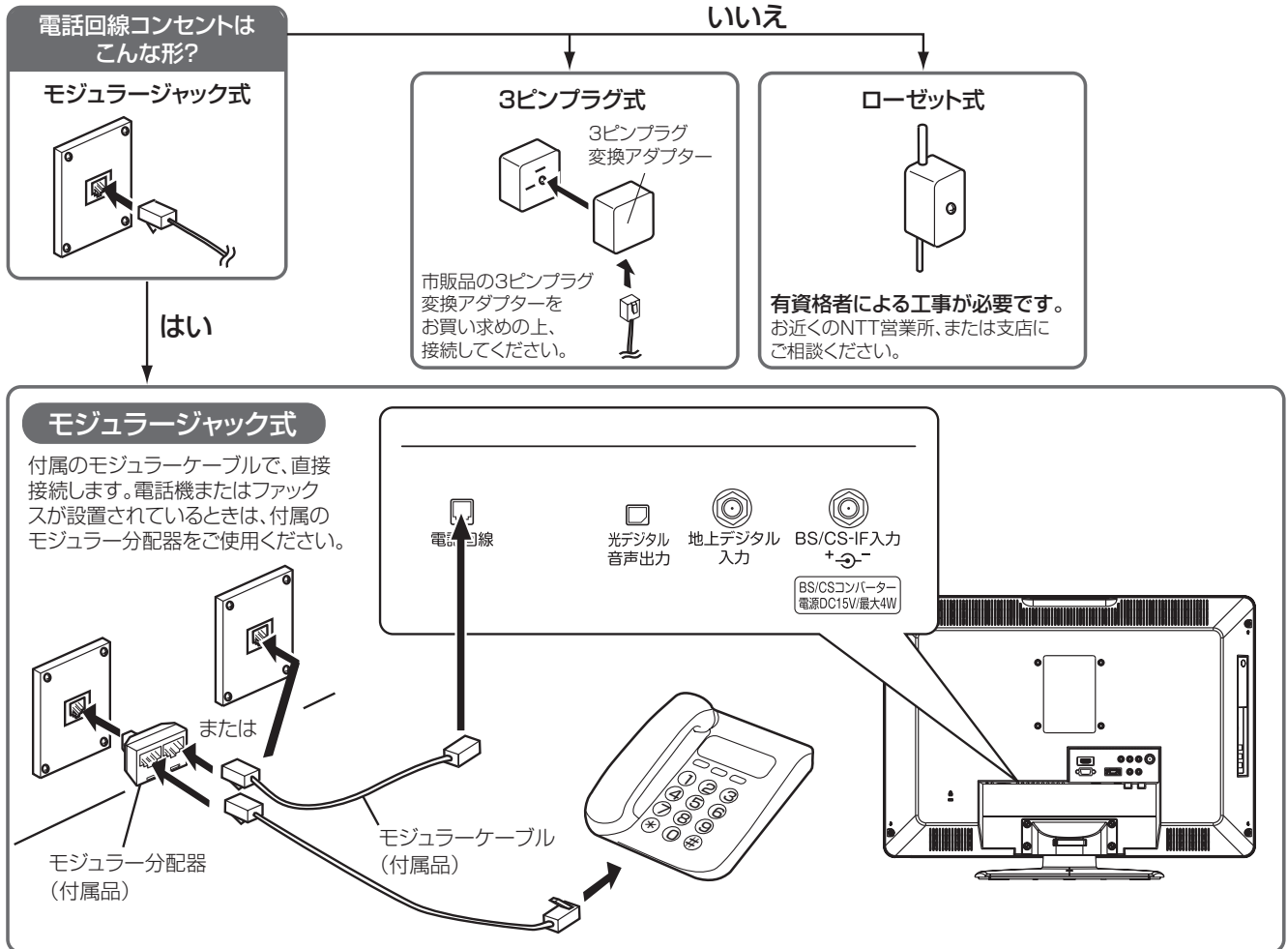
お知らせ

- 本機専用の B-CAS カード以外の物を挿入しないでください。故障や破損の原因となります。
- 裏向きや逆方向から挿入しないでください。挿入方向を間違うと B-CAS カードは機能しません。
- WOWOW、スターチャンネルなどの有料サービスを受けるには、B-CAS カードの登録のほかに個別の受信契約が必要になります。詳しくはそれぞれの有料放送を行う放送局のカスタマーセンターにお問い合わせください。

電話回線と接続する

本機は、モジュラージャック式のジャックから電話回線に直接接続できるようになっています。
ご使用の電話回線コンセントがモジュラージャック式でない場合は、変換アダプターまたは工事が必要です。

重要 ホームテレフォンやビジネスフォンをご使用の場合は、販売店か NTT 営業所、または支店にご相談ください。

電話回線コンセントの種類をご確認ください

お知らせ

- ケーブル電話などでは、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ケーブル電話会社にお問い合わせください。
- ６局４芯タイプの電話機の中で、NTT 仕様に準拠していない機器は、ご使用になれません。
- コードをはずすときは、プラグを持ち、ツメを押しながら抜いてください。また、プラグを差し込むときは、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
- 公衆電話、共同電話、地域集団電話、自動車電話、携帯電話、PHS、船舶電話には接続できません。
- キャッチフォン契約されている場合は、本機の通信中に電話がかかってくるとエラーが生じ通信が終了します。
- ファクシミリが接続されている場合は、ファクシミリの送受信中に本機が通信を行うと、ファクシミリのデータが正しく送受信できない場合があります。
- 付属のモジュラー分配器を使用して、電話機などを接続している場合、本機が通信するとき電話機から呼出音がなる場合があります。このような場合には、市販の自動転換器をご使用になることをおすすめします。

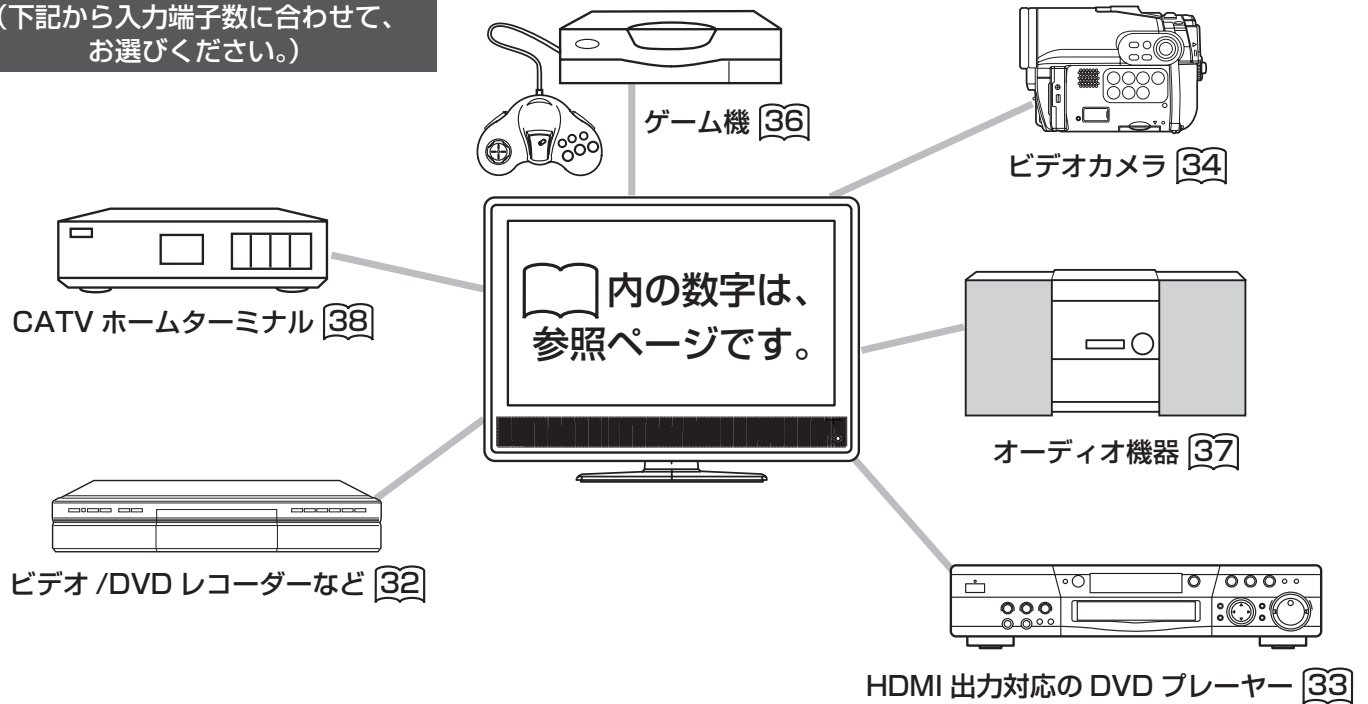
お手持ちの機器と接続する

お守りください

接続時のご注意

●他の機器と組み合わせてご使用になるときにはそれぞれの取扱説明書をよくお読みください。
●接続の際は各機器の電源を切ってから行ってください。電源を入れた状態で接続すると、大きな音が出たり故障の原因となることがあります。
●他の機器との接続時、入出力端子をまちがえて接続すると、故障の原因になりますのでご注意ください。
●接続する他の機器、接続コードおよびアンテナ線が、テレビの画面または画面の後面に配置されますと、映像がゆれたり妨害を受ける恐れがあります。接続機器、接続コードおよびアンテナ線は上記の配置を避けてください。特にアンテナ線は、他の接続ケーブルからもはなすように配置してください。

接続できる機器

（下記から入力端子数に合わせて、お選びください。）

※本機にはモニター出力端子がありませんので、本機から録画することはできません。

システムアップに必要な接続コード（市販品）

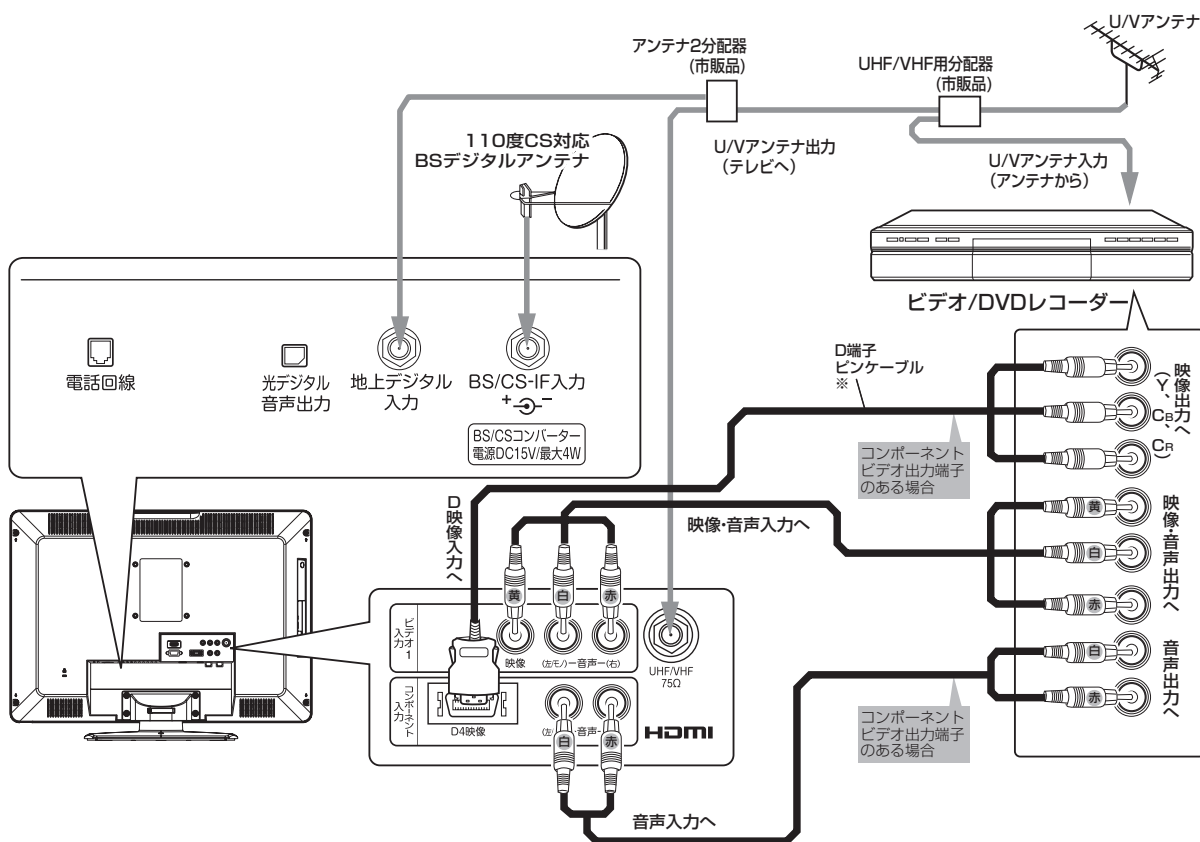
これらと同等のコードが相手側の機器に付属している場合には、新しく購入される必要はありません。

お手持ちの機器と接続する（つづき）

ビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器と接続する

S 映像出力端子付のビデオをご使用のときは、S 映像コードで接続されることをおすすめします。より良い画質でビデオを楽しめます。

接続のご注意

- ●本機にはモニター出力端子がありませんので、本機から録画することはできません。
- ●接続時は必ず各機器の電源を切ってください。
- ●接続ケーブルのプラグは接続端子の奥までしっかりと差し込んでください。不完全な接続は、画像や音声にノイズや雑音の原因となります。（市販の接続コードをご使用ください。）
- ●音声はそれぞれの音声端子（L（左）R（右））に接続してください。
- ●接続をはずすときは、ケーブルや電源コードを無理にひっぱらず、プラグの先を持って抜いてください。
- ●本機と接続している機器の距離が近すぎると、画像や音声が電波によって干渉を受けることがあります。ノイズや雑音がでるときは、お互いを十分に離してください。

※ビデオ /DVD レコーダーが D 映像出力端子の場合は、
D 端子ケーブル（市販品）をご使用ください。

お知らせ

- ●本機と録画機器の再生のしかたについては、「テレビのリモコンで DVD/HDD レコーダーなどを操作する」113 をご覧ください。
- ●録画機器について詳しくは、録画機器の取扱説明書をあわせてお読みください。
- ●アンテナ線は本機と録画機器両方に接続します。受信方法などの違いによって、接続のしかたが異なりますので、詳しくは録画機器の取扱説明書をご覧ください。
- ●録画機器の U/V アンテナ出力端子から本機の U/V アンテナ入力端子に接続すると、地上デジタル放送が正しく受信できない場合がありますので、この接続方法はおすすめできません。

録画機器接続時のご注意

デジタルチューナーなどの映像をビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器を通して入力すると、著作権保護技術によって、映像が正しく表示されない場合があります。このような場合は、録画機器を通さずに、本機のビデオ入力端子に直接接続してください。

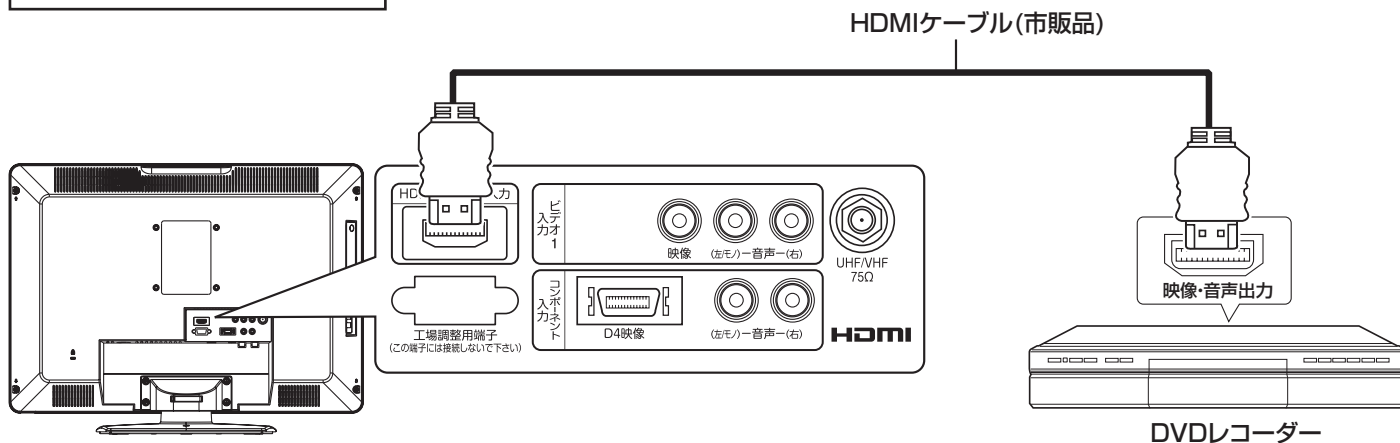
メ モ

D4 映像入力端子について

- ●本機の D4 映像入力端子は、1125i（1080i）、750p（720p）、525p（480p）、525i（480i）の映像入力信号に対応しています。
- ●ビデオなどの「Y、PB、PR」「Y、CB、CR」「Y、B-Y、B-R」などの出力端子と接続する場合は、D 端子ピンケーブル（市販品）で接続できます。
- ● D4映像入力端子に接続するときは、音声入力端子にも同時に接続してください。

HDMI 出力対応の DVD レコーダーなどと接続する

本機は、HDMI または DVI 出力対応機器との接続ができます。

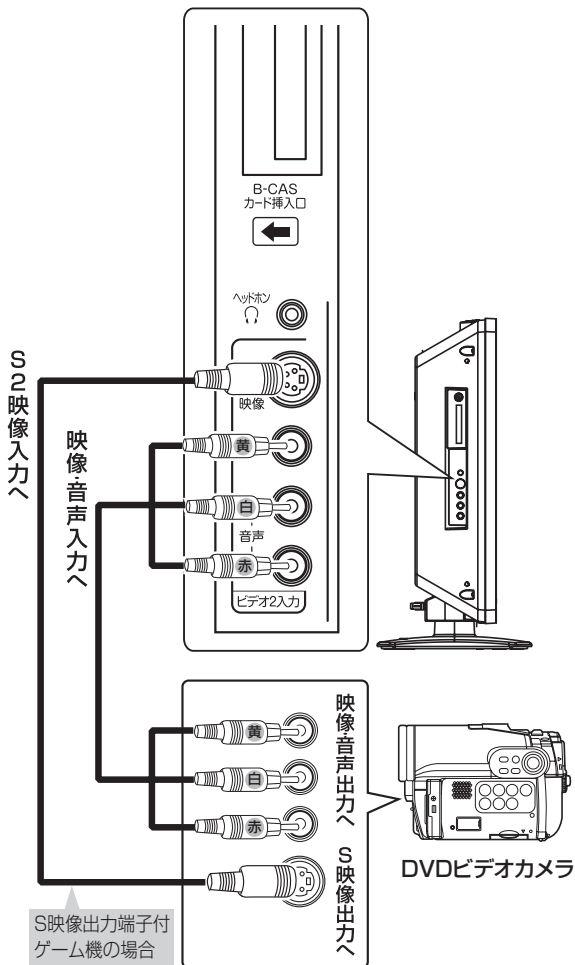
HDMI 出力対応機器の場合

お知らせ

- ●本機と他の機器を DVI-HDMI 変換ケーブルで接続しないでください。正しく表示できない場合があります。
- ● HDMI 規格に適合していないケーブルは使用できません。HDMI ロゴの表示があるケーブルを使用してください。
- ●出力する機器側の信号切り換えや操作により画面や音声にノイズが入る場合がありますが、故障ではありません。
- ● HDMI 入力は、リモコンまたは本体の入力切換ボタンで選択することができます。

1 入力切換ボタンで「HDMI」を選択する

2 接続している機器を操作する

お手持ちの機器と接続する（つづき）

ビデオカメラと接続する

1 入力切換ボタンで「ビデオ 2」を選択する

画面に「ビデオ 2」の表示が出ます。

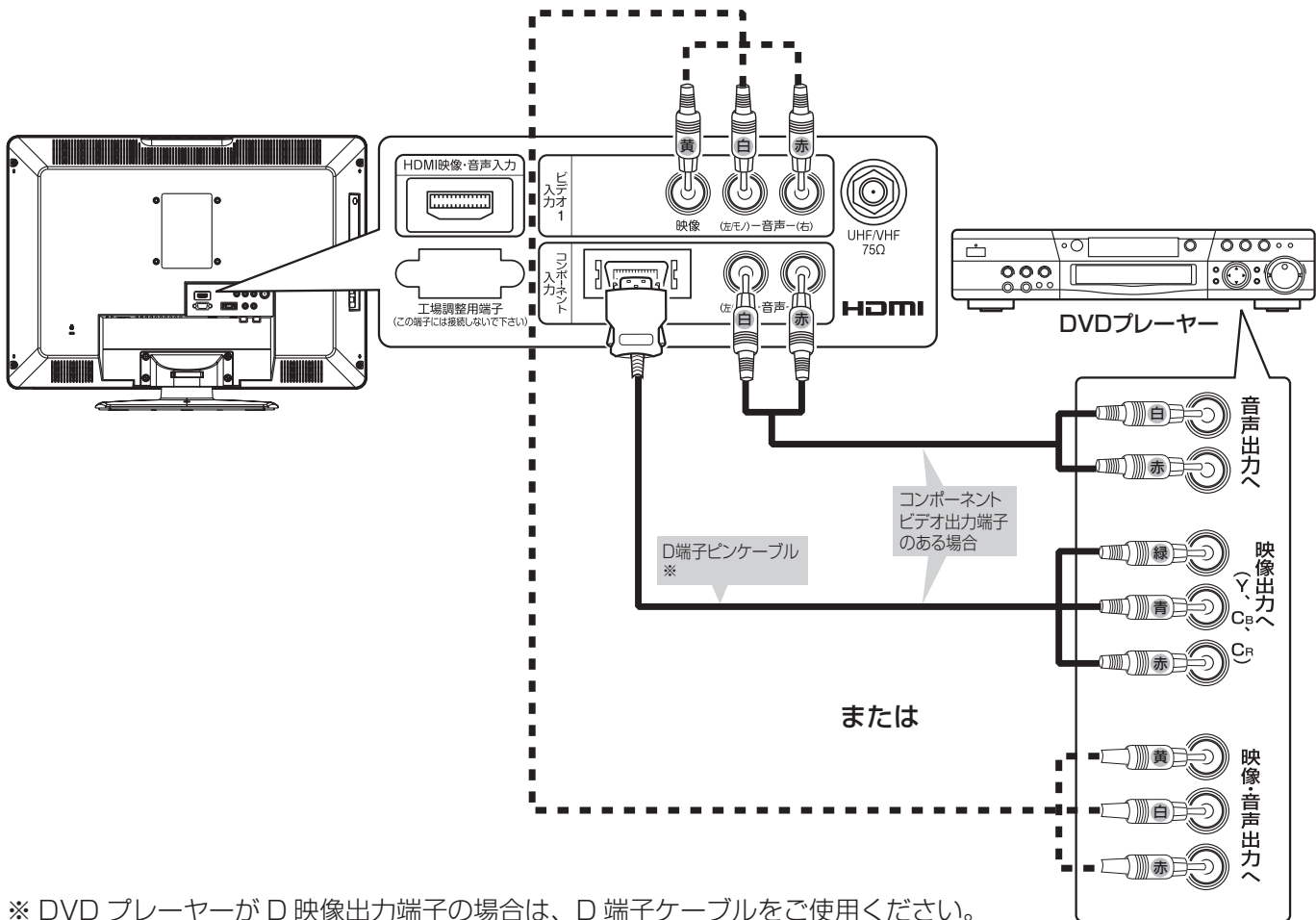
2 ビデオカメラを操作する

メ　モ

S2 映像端子について

明るさの信号と色の信号を分けて送る信号用の端子です。S2 映像入力端子と映像入力端子が両方に接続されている場合は、S2 映像が優先されます。

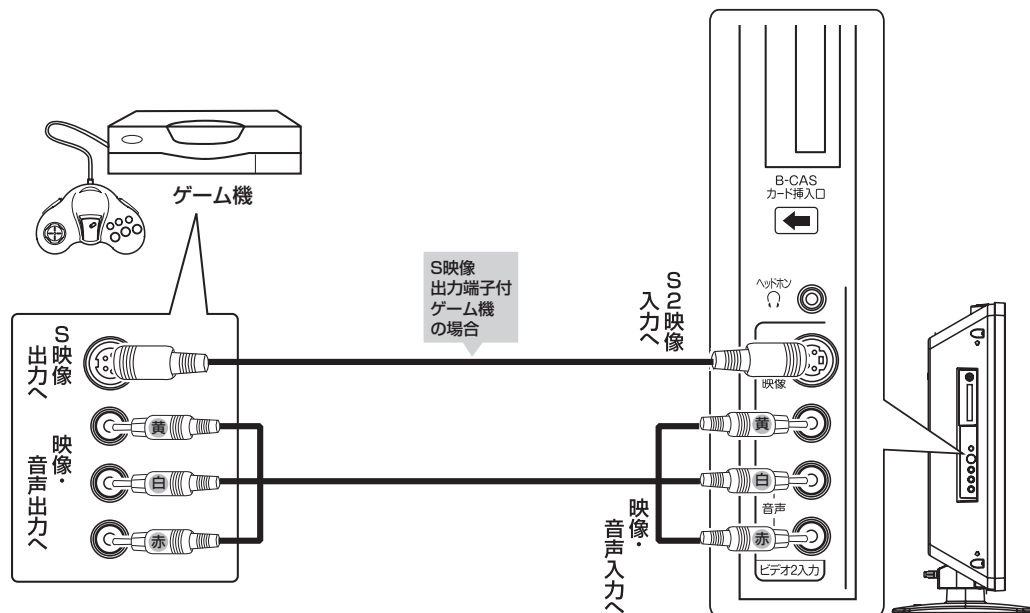
DVD プレーヤーと接続する

HDMI映像・音声入力
ビデオ入力1
映像 (左/モノ)ー音声ー(右)
黄 白 赤
UHF/VHF 75Ω
コンポーネント入力
(左)ー音声ー
白 赤
工場調整用端子
(この端子には接続しないで下さい)
HDMI
DVDプレーヤー
音声出力へ
映像出力へ(Y、CB、CR)
緑 青 赤
コンポーネントビデオ出力端子のある場合
D端子ピンケーブル※
または
映像・音声出力へ
黄 白 赤

※ DVD プレーヤーが D 映像出力端子の場合は、D 端子ケーブルをご使用ください。

1 入力切換ボタンで「コンポーネント」を選択する

2 DVD プレーヤーを操作する

お手持ちの機器と接続する（つづき）

ゲーム機と接続する

お知らせ

- 本機とゲーム機などの再生のしかたについては「ビデオなどの映像を見る」112 をご覧ください。
- ビデオ入力端子に入力された映像・音声信号は、わずかに時間が遅れて画面表示・スピーカーに出力されます。
  入力された信号をデジタル処理しているために遅れが発生するもので、故障ではありません。
  - ・ゲーム機のコントローラを使用される場合は、コントローラの操作に対して、画面がわずかに遅れて表示されます。
  - ・カラオケ機器などをビデオ入力端子に接続した場合、カラオケ機器本体のスピーカー音声に対して、テレビのスピーカー音声がわずかに遅れて出力されます。
- ゲームの種類･内容によっては、画面が欠ける場合があります。
- ライフルタイプやガン（銃）タイプのコントローラを使用するシューティングゲームなどは、本機では使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトおよびコントローラの取扱説明書をご覧ください。

1 テレビゲーム本体とビデオ 2 入力端子を接続する

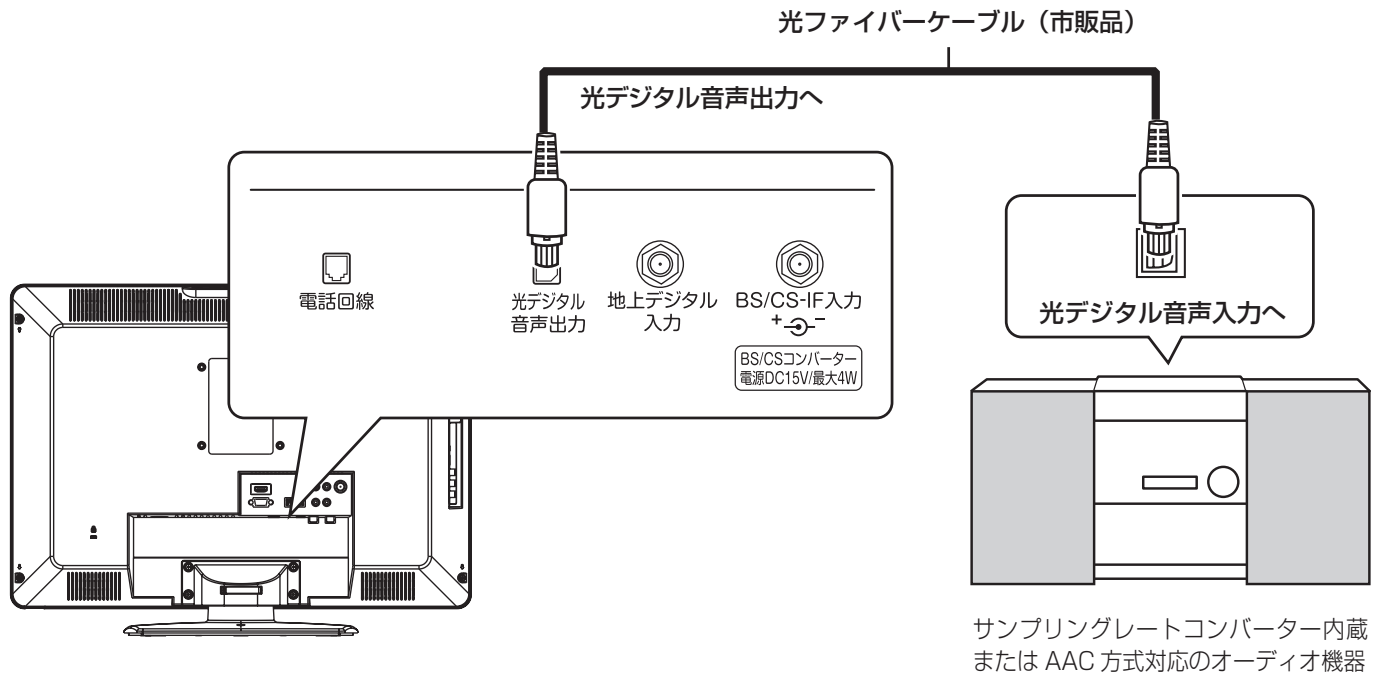
2 入力切換ボタンで「ビデオ 2」を選ぶ

3 ゲーム機を操作する

デジタル音声入力端子付きオーディオ機器と接続する

本機の光デジタル音声出力端子に、デジタル音声入力端子付きのオーディオ機器を接続することができます。
また、本機は MPEG-2 AAC 方式で出力することもできるので、AAC 方式対応のオーディオ機器にも接続できます。「デジタル音声出力を設定する」51 をご覧ください。

※地上アナログ放送やビデオ入力、コンポーネント入力、HDMI 入力をご覧になっているときには、光デジタル音声は、ご利用になれません。

サンプリングレートコンバーター内蔵
または AAC 方式対応のオーディオ機器

お知らせ

- 本機の光デジタル音声出力端子はフタでふさがっていますが、ドアのようになっています。光ファイバーケーブルのプラグ部を持って、そのままゆっくりと端子にまっすぐに差し込んでください。
- 本機は、放送局側の音声サンプリング周波数に対応した光デジタル音声信号を出力します。このため、接続できる機器は、サンプリングレートコンバーターを内蔵したアンプや MD レコーダーなどに限定されます。
- デジタル番組（AAC）は音声切換ボタンを押しても、光デジタル音声出力の音声は変わりません。
- デジタルメニュー設定の接続機器設定にて PCM を選択すると、PCM 固定出力に切り換えることもできます。
- PCM に設定したままでは、接続機器では PCM 再生しかできません。本機の初期設定は、PCM 固定出力となっておりますので AAC でお楽しみいただくには、接続機器設定を PCM から AAC に切り換えてご使用ください。

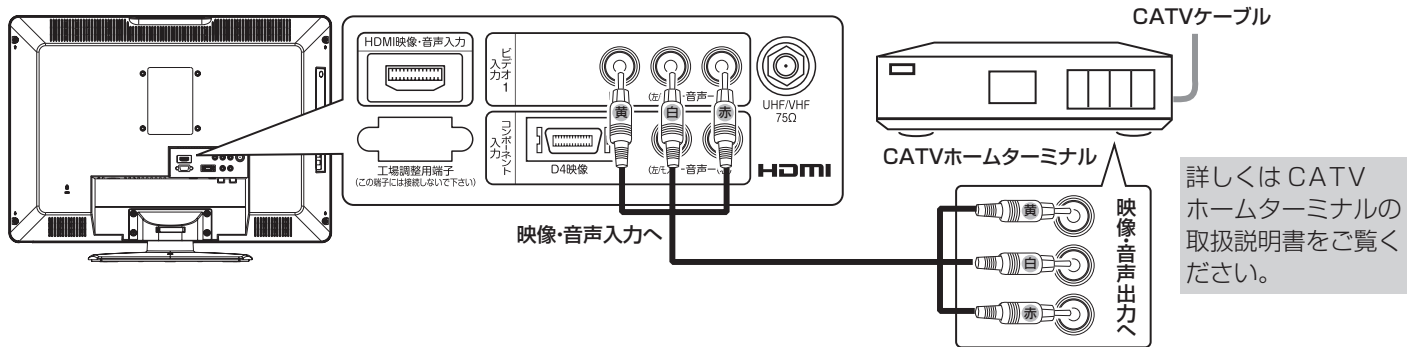
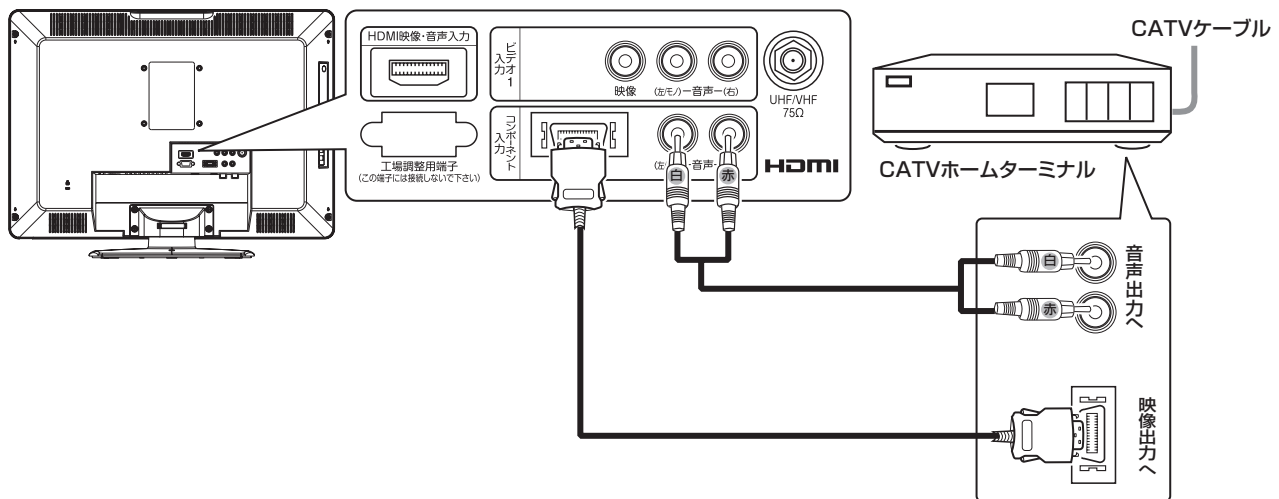
メ モ

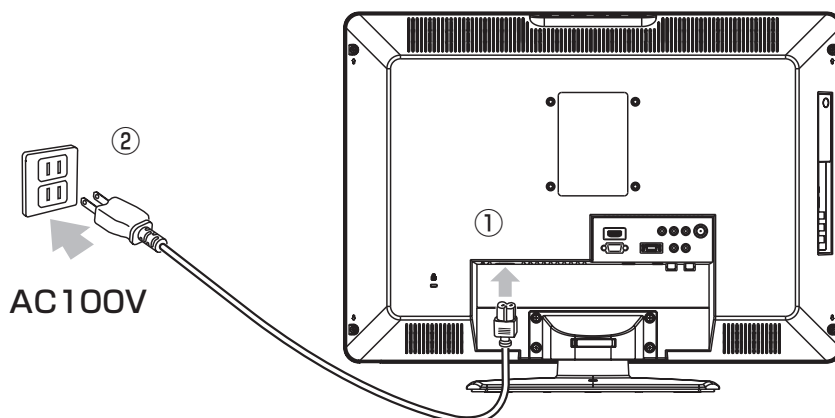
AAC（Advanced Audio Coding）について

AAC とは、音声符号化の規格の一つです。AAC は、CD（コンパクトディスク）並の音質データを約 1/12 にまで圧縮できます。また、5 チャンネル＋低域強調チャンネルのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

お手持ちの機器と接続する（つづき）

CATV ホームターミナルと接続する

CATV の受信は、サービスが行われている地域のみ可能で、使用する機器ごとに CATV 会社との受信契約が必要です。さらにスクランブル放送（有料）はアダプター（ホームターミナル）が必要です。詳しくは、CATV 会社にご相談ください。

D 映像出力端子の場合

電源プラグの接続について

① 電源コードのコネクタ側を本体の後面にある電源コードコネクタに差し込む
② 電源プラグをコンセントに差し込む

⚠警告

指定の電源電圧でご使用ください。表示された電源電圧以外で使用すると、火災･感電の原因となります。

⚠注意

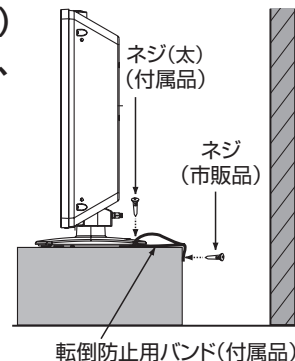
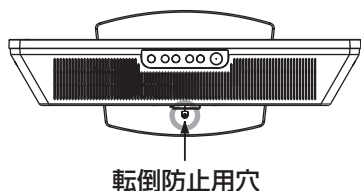
- 電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付けてください。本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

据え付けについて

転倒防止について

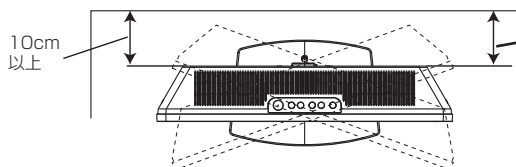
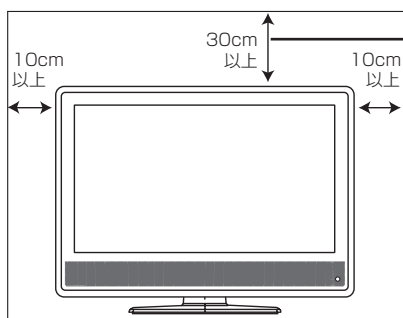
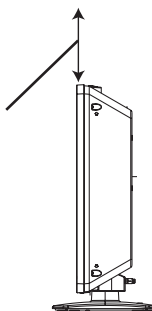
スタンドご使用時の転倒防止について

本機は奥行きが小さいため、大きな地震等の際には倒れる場合があります。必ず転倒防止を行ってください。

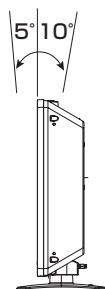
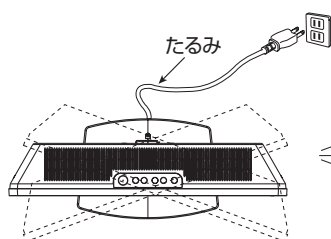
1 **本機のスタンド部にある転倒防止用穴に転倒防止用バンド（付属品）をネジ（太）（付属品）で固定し、もう一方を確実に支持できる台、壁や柱などにネジ（市販品）でしっかりと固定してください。**

⚠注意
本機は安定したところに据え付けてください。また、転倒防止の処置を行ってください。
本機が転倒し、けがの原因となることがあります。

据え付けるときのご注意

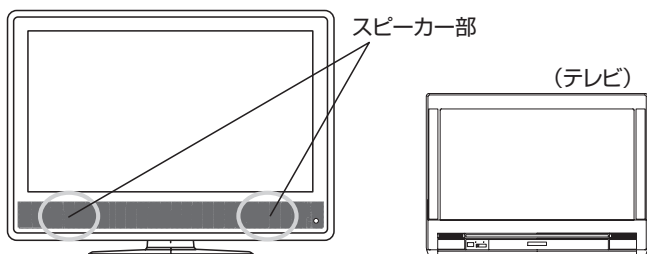
本体の設置について

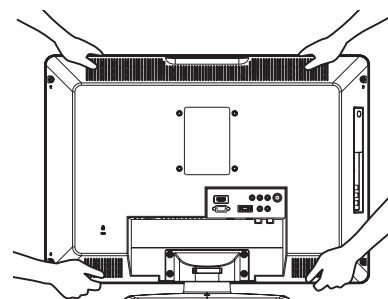
●本体の周囲は、放熱のための空間および回転時の空間を十分に確保してください。

本体の向きを変える

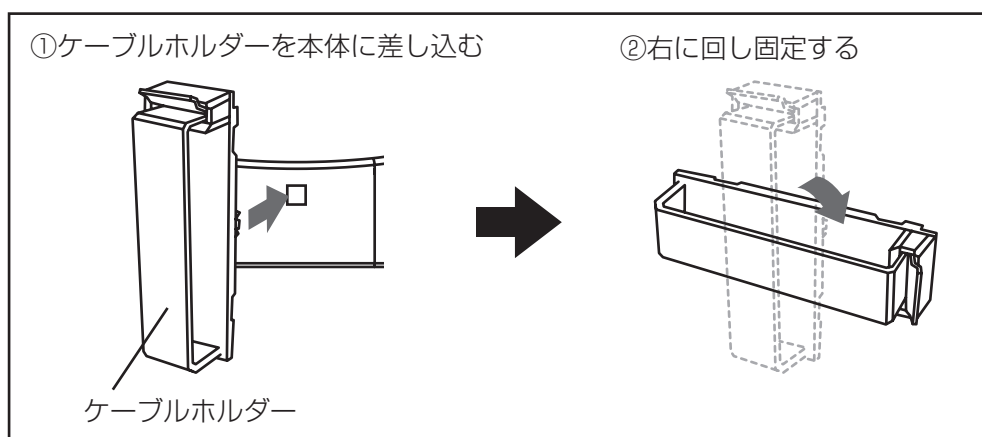
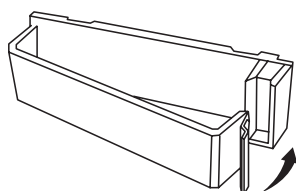
●見やすい角度に合わせてお使いください。

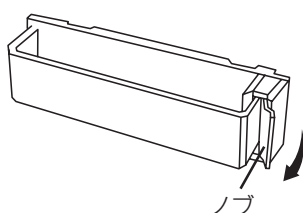
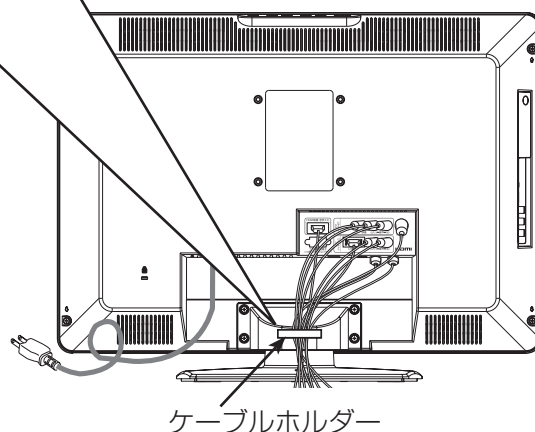
5° 10°

⚠注意
回転中に手や顔、物を近づけない。
また、必要以上の力で急激に回転させないでください。
（スタンドがすべって台からはずれてしまう恐れがあります。）

設置するとき

●ブラウン管タイプのテレビを本機のスピーカー部に近づけると、ブラウン管テレビに色むらや画面揺れが発生することがありますので離して使用してください。

移動するとき

●この商品は重量物です。移動するときは、二人作業で持ち運びしてください。
●持ち運びは、製品上側と製品下側の両端部を持って製品を保持してください。

ケーブルの固定について

RF ケーブル、ビデオコードなどを、付属のケーブルホルダーで固定してください。

留める

矢印方向にカチッと
音がするまで押す

はずす

ノブを押しながら
矢印の方向に引く

お守りください

アンテナ線、録画機器との接続コードを接続する際は、回転に支障のないように、付属のケーブルホルダーを使用し、図のように台の後方で束ねてください。

据え付けについて（つづき）

据え付けるときのご注意（つづき）

⚠注意
●本機の据え付けには性能および安全性を維持するために必ず本体一体のスタンドをご使用ください。スタンドを使用せずに、別の取り付け強度が不足する部材を使用すると、転倒したり落下して火災・感電・けがの原因となります。
●通風孔をふさがないように据え付けてください。
通風孔をふさぐと熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

●ラック、箱のような狭いところに入れないでください。
●周囲の壁などから 10cm 以上離してください(モニターを壁掛け設置する場合は除く)。但し、上部につきましては、30 ｃm以上離してください。

⚠注意
電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付けてください。

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意
壁に取り付ける場合は、必ず別売の専用の壁掛け金具を使用し、販売店にお問い合わせの上、指定の専門業者に依頼してください。専門業者以外の人が壁掛け金具を使用して設置すると、壁への取り付けがもろい場合に、本機が落下し、打撲や骨折など大けがの原因となります。